

令和7年度  
長崎市総合計画審議会  
報告書

令和8年3月

## 目 次

1	長崎市総合計画審議会の役割	1
2	長崎市総合計画審議会の構成	1
3	担当部会	8
4	審議の対象	14
5	審議会の進め方	16
6	長崎市総合計画審議会の開催状況	16
7	審議会の取組みに対する総括的意見等	21
8	後期基本計画策定に関する意見等	23
9	第3期総合戦略策定に関する意見等	45
10	施策評価に対する意見等	54
	<b>【総合計画及び総合戦略】</b>	
	まちづくりの方針A及び特定目標	54
	まちづくりの方針B	57
	まちづくりの方針C及び基本目標1	59
	まちづくりの方針D	61
	まちづくりの方針E及び基本目標3	63
	まちづくりの方針F及び基本目標2	65
	まちづくりの方針G	70
	まちづくりの方針H	72

【重点プロジェクトアクションプラン】 ..... 75

<資 料>

長崎市政策評価実施要綱..... 78

## 1 長崎市総合計画審議会の役割

長崎市総合計画審議会は、長崎市の総合計画の策定と施策の評価（計画の進捗管理）について、広く市民の参画を得て、専門的な立場や市民の立場から意見や助言等を行うことで、総合計画の効果的かつ効率的な推進に取り組むことを目的として設置されている。

本審議会の役割は、長崎市が行った政策評価（内部評価）について、中立的・専門的観点から、評価結果や評価の手法その他評価全般について意見や助言等を行うとともに、総合計画に掲げるめざす都市像の実現に向けた今後の施策の展開に対する新たな取り組みの提案等を行うことである。

以下のとおり、令和7年度の本審議会の取り組み結果を報告書として取りまとめたので、市長に提出する。

## 2 長崎市総合計画審議会の構成

氏名	主な役職名等	備考
西村 宣彦	長崎大学執行役員 人文社会学域長 経済学部 教授	会長 第4部会 新ナガサキ創造推進部会
村木 昭一郎	一般社団法人長崎国際観光コンベンション協会 会長	副会長 第1部会 新ナガサキ創造推進部会（部会長）
谷澤 憲一郎	長崎人権擁護委員協議会 常務委員	第3部会
青野 悠	長崎県弁護士会 弁護士	第2部会

氏名	主な役職名等	備考
赤瀬 浩	活水女子大学国際文化学部 教授	第1部会（部会長） 新ナガサキ創造推進部会
有馬 一郎	一般社団法人長崎県建築士会 長崎支部長 （委員任期：令和7年6月30日まで）	第2部会
泉 猛	株式会社長崎経済研究所 調査研究部主任研究員	第1部会
井手 瑳智子	公益社団法人全国消費生活相談員協会 会員 （委員任期：令和7年6月30日まで）	第2部会
犬塚 純一	市民公募委員	第4部会
岩永 堅之進	公益財団法人長崎市スポーツ協会 副会長	第3部会
大岩 道子	長崎市青少年育成連絡協議会 副会長 （委員任期：令和7年6月30日まで）	第3部会 新ナガサキ創造推進部会
大串 寿	長崎市消防団 副団長 （委員任期：令和7年7月1日から）	第2部会
大久保 一哉	社会福祉法人長崎市社会福祉協議会 事務局 長	第3部会
大橋 逸子	公益社団法人全国消費生活相談員協会 会員 （委員任期：令和7年7月1日から）	第2部会
奥村 公子	特定非営利活動法人環境カウンセリング協会 長崎 理事	第2部会

氏名	主な役職名等	備考
尾崎 眞理子	被爆体験を語り継ぐ永遠の会 副代表	第1部会
檜山 周一	長崎日蘭協会 事務局長 (委員任期：令和7年7月1日から)	第1部会
蒲原 新一	長崎総合科学大学総合情報学部 教授	第2部会 (部会長) 新ナガサキ創造推進部会 (副部会長)
木下 直子	長崎大学ダイバーシティ推進センター ダイバーシティコーディネーター/准教授 (委員任期：令和7年5月16日から)	第3部会 (副部会長) 新ナガサキ創造推進部会
桐野 耕一	NPO 法人長崎コンプラドール 理事長	第1部会 (副部会長)
草野 由美子	長崎市退職校長会 副会長	第3部会
久保 大人	長崎西彼農業協同組合 担い手支援センター 課長	第4部会
小岩 靖彦	長崎市PTA連合会 副会長	第3部会
小林 一久	長崎市漁業協同組合長連絡協議会 委員	第4部会
小林 信博	長崎県立大学情報システム学部 教授	第4部会 (部会長) (令和7年7月1日から) 第4部会 (副部会長) (令和7年6月30日まで) 新ナガサキ創造推進部会
小柳 伸一郎	長崎市防犯協会連合会 評議員 (委員任期：令和7年6月30日まで)	第2部会

氏名	主な役職名等	備考
さかい 境 ふみひろ 文博	株式会社十八親和銀行 地域振興部 調査役 (委員任期：令和7年6月30日まで)	第4部会
坂口 由芽	市民公募委員 (委員任期：令和7年7月1日から)	第4部会
さとう 佐藤 かおる かおる	長崎労働局 雇用環境・均等室長 (委員任期：令和7年5月15日まで)	第3部会
すえつぐ 末續 ともき 友基	公益財団法人 長崎県産業振興財団 常務理事 兼 企業誘致推進本部長 (委員任期：令和7年5月16日から)	第4部会
すえなが 末永 ひろゆき 裕之	長崎広告業協会 会長	第4部会 (令和7年6月30日まで) 第1部会 (令和7年7月1日から)
すぎはら 杉原 としお 敏夫	長崎大学 名誉教授 (経済学部) (委員任期：令和7年6月30日まで)	第4部会 (部会長) (令和7年6月30日まで) 新ナガサキ創造推進部会
たちやま 立山 てつろう 哲朗	日本労働組合総連合会長崎県連合会・長崎地 域協議会 事務局長 (委員任期：令和7年12月3日から)	第4部会
たに 谷 みえ 美絵	一般社団法人長崎市心身障害者団体連合会 副会長	第3部会
つぎき 津崎 ゆうき 祐希	日本労働組合総連合会長崎県連合会・長崎地 域協議会 事務局長 (委員任期：令和7年8月7日から令和7年 12月2日まで)	第4部会

氏名	主な役職名等	備考
なかがわ しんご 中川 進吾	長崎市防犯協会連合会 評議員 (委員任期：令和7年7月1日から)	第2部会
なかむら しやうぞう 中村 聖三	長崎大学大学院工学研究科 教授	第2部会 (副部会長)
なかもと としのぶ 中本 年信	長崎市青少年育成連絡協議会	第3部会
なるせ ひろふみ 成瀬 博文	株式会社十八親和銀行 地域振興部 副部長 (委員任期：令和7年7月1日から)	第4部会 (副部会長) (令和7年7月1日から)
にし の てるむ 西野 輝夢	日本労働組合総連合会長崎県連合会・長崎地 域協議会 事務局長 (委員任期：令和7年8月6日まで)	第4部会
はやかわ こういち 早川 航一	一般社団法人長崎市医師会 理事	第3部会
ひさの たかあき 久野 隆紹	長崎日蘭協会 事務局長 (委員任期：令和7年6月30日まで)	第1部会
ひらい あんな 平井 杏奈	移住者 (委員任期：令和7年6月30日まで)	第1部会 新ナガサキ創造推進部会
ひらかわ もとえ 平川 礎恵	長崎労働局 雇用環境・均等室長 (委員任期：令和7年5月16日から)	第3部会 (令和7年6月30日まで) 第4部会 (令和7年7月1日から)
ふくしげ たけひろ 福重 武弘	公益財団法人 長崎県産業振興財団 常務理事 兼 企業誘致推進本部長 (委員任期：令和7年5月15日まで)	第4部会

氏名	主な役職名等	備考
堀内 伊吹	長崎県音楽連盟 運営委員長	第3部会（部会長） 新ナガサキ創造推進部会
升本 由美子	公益財団法人長崎平和推進協会 副理事長	第1部会
松尾 英昭	土井首地区コミュニティ協議会 会長	第4部会
松尾 肇浩	一般社団法人長崎市保育会 副会長 (委員任期：令和7年7月1日から)	第3部会 新ナガサキ創造推進部会
松永 安市	長崎商工会議所 専務理事	第4部会
松本 雄一郎	長崎市地域包括支援センター連絡協議会 副会長	第3部会
丸本 和泉	市民公募委員 (委員任期：令和7年7月1日から)	第2部会
峯 比呂志	一般社団法人長崎県バス協会 専務理事	第2部会
森 正	長崎市消防団 第14分団 分団長 (委員任期：令和7年6月30日まで)	第2部会
矢内 琴江	長崎大学ダイバーシティ推進センター 副センター長/ ダイバーシティコーディネーター/准教授 (委員任期：令和7年5月15日まで)	第3部会（副部会長） 新ナガサキ創造推進部会

氏名	主な役職名等	備考
やまぐち 山口 <span style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;">             さとし 聡           </span>	公益社団法人長崎県宅地建物取引業協会 長崎支部運営委員 (委員任期：令和7年7月1日から)	第2部会 新ナガサキ創造推進部会
やまだ 山田 <span style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;">             あや 彩           </span>	移住者 (委員任期：令和7年7月1日から)	第1部会 新ナガサキ創造推進部会

### 3 担当部会

#### 【総合計画】

まちづくりの方針	基本施策	担当部会
A 私たちは「独自の歴史・文化を活かし、多様な交流と満足を生み出すまち」をめざします	A1 地域の個性を守り、活かし、伝えます	第1部会 (交流と平和)
	A2 交流のための都市機能を高め、賑わいを創出し、観光まちづくりを進めます	
	A3 国際性を豊かにします	
B 私たちは「平和を愛し、平和の文化を育むまち」をめざします	B1 被爆の実相を継承します	
	B2 核兵器廃絶の実現に向け、着実に歩みを進めます	
	B3 平和の文化を醸成します	
C 私たちは「人や企業に選ばれ、産業が進化し続けるまち」をめざします	C1 地場事業者の成長を支援します	第4部会 (地域経済と地域経営)
	C2 人や企業を呼び込み、新たな事業を創出して、産業を強くします	
	C3 次世代につながる農林業を育てます	
	C4 水産業を環境変化に強く活気のある持続可能な産業にします	
	C5 地元農水産物の消費を拡大します	

D 私たちは「環境と調和した持続可能なまち」をめざします	D1	脱炭素社会の実現をめざします	第2部会 (環境と快適な暮らし)
	D2	資源を守り大切に社会の実現をめざします	
	D3	豊かな地域環境を守り活かします	
	D4	環境意識・行動の定着を図ります	
E 私たちは「安全・安心で快適に暮らせるまち」をめざします	E1	地域の連携・協力を促進し、防災体制の充実を図ります	
	E2	犯罪、交通事故のない地域づくりを進めます	
	E3	安心できる消費生活環境をつくります	
	E4	暮らしやすいコンパクトな市街地を形成します	
	E5	安全・安心で快適な住環境をつくります	
	E6	車や公共交通による移動の円滑化を図ります	
	E7	安全・安心で快適な道路・公園をつくります	
	E8	水道水を安定して供給し、下水を適正に処理します	

<p>F 私たちは「みんなで支え合い、だれもが健康にいきいきと暮らせるまち」をめざします</p>	F1	人権が尊重され、様々な分野で男女が参画するまちをめざします	<p>第3部会 (支え合いと豊かな心)</p>
	F2	高齢者が安心して自分らしい暮らしを続けられる地域づくりを進めます	
	F3	障害者が安心して自分らしく暮らせるまちづくりを進めます	
	F4	子どもをみんなで育てる子育てしやすいまちづくりを進めます	
	F5	原爆被爆者の援護を充実します	
	F6	生活困窮者等が将来への希望を持てる支援を充実します	
	F7	自らすすめる健康づくりを推進します	
	F8	安心できる衛生環境を確保します	
	F9	安心できる医療環境の充実を図ります	
<p>G 私たちは「未来を創る人を育み、だれもが学び、楽しみ続けられるまち」をめざします</p>	G1	長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます	
	G2	だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります	
	G3	スポーツ・レクリエーションの振興を図ります	
	G4	芸術文化あふれる暮らしを創出します	

H 私たちは「参画と協働によるまちづくりと確かな行政経営を進めるまち」をめざします	H1 市民との良好なコミュニケーションを図ります	第4部会 (地域経済と地域経営)
	H2 参画と協働による持続可能なまちづくりを進めます	
	H3 市民に信頼される市役所にします	

## 【総合戦略】

第2期目標	具体的施策	担当部会
基本目標1 経済を強くし、新しい ひとの流れをつくる	(1) 魅力ある仕事をつくる	第4部会 (地域経済と地域経営)
	(2) 新しい仕事へのチャレンジを応援する	
	(3) 学び、暮らし、楽しむ魅力を高める	
	(4) 移住を促進する	
	(5) 関係人口を創出・拡大する	
基本目標2 子どもをみんなで育て る子育てしやすいまち をつくる	(1) 結婚・妊娠・出産の希望をかなえる	第3部会 (支え合いと豊かな心)
	(2) 子育ての環境を充実する	
	(3) 学校における教育環境を充実する	
基本目標3 「まちの形」と「まち を支えるしくみ」をつく る	(1) 地域の力でまちづくりを進める	第2部会 (環境と快適な暮らし)
	(2) コンパクトで暮らしやすいまちをつくる	
	(3) 地域をネットワークでつなぐ	

特定目標 交流の産業化	(1) 顧客創造プロジェクト	第1部会 (交流と平和)
	(2) 価値創造プロジェクト	
	(3) 交流を支える都市の基盤整備	
	(4) 交流の産業化を進める体制づくり	

### 【重点プロジェクトアクションプラン】

調査・審議の対象	担当部会
「経済再生」「少子化対策」「新市役所創造」の3つを重点分野とした、人口減少対策に関する重点的取組み	新ナガサキ創造推進部会

## 4 審議の対象

### (1) 計画策定

令和7年度が第五次総合計画前期基本計画及び第2期長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終年度となることから、次期計画の施策体系の審議に加え、施策の具体的内容について審議した。

なお、後期基本計画から、変化の激しい社会経済環境や新たな時代の潮流に柔軟かつ的確に対応しつつも、地方創生や人口減少対策の取組みをより一体的に推進するため、「長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を総合計画に統合することから、両計画について一体的に検討を行った。

### (2) 評価

政策評価においては、ロジックモデル（施策の目的が達成されるまでの論理的な因果関係をフローチャートや体系図で明示したもの）を活用し、前期基本計画の39基本施策の中から、以下の8つの基本施策及び総合戦略の4つの基本目標について、各部会での協議により選定し、評価するとともに、8つのまちづくりの方針についても総括的に意見交換を行った。

また、令和6年度から取り組んでいる3つの重点プロジェクトアクションプラン（経済再生・少子化対策・新市役所創造）についてもロジックモデルを用いて評価を行った。

#### (第1部会：交流と平和)

##### 【総合計画】

A2 交流のための都市機能を高め、賑わいを創出し、観光まちづくりを進めます

B3 平和の文化を醸成します

##### 【総合戦略】

特定目標 交流の産業化

(第2部会：環境と快適な暮らし)

【総合計画】

D2 資源を守り大切にできる社会の実現をめざします

E4 暮らしやすいコンパクトな市街地を形成します

【総合戦略】

基本目標3 「まちの形」と「まちを支えるしくみ」をつくる

(第3部会：支え合いと豊かな心)

【総合計画】

F4 子どもをみんなで育てる子育てしやすいまちづくりを進めます

G2 だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくりま

【総合戦略】

基本目標2 子どもをみんなで育てる 子育てしやすいまちをつくる

(第4部会：地域経済と地域経営)

【総合計画】

C2 人や企業を呼び込み、新たな事業を創出して、産業を強くします

H2 参画と協働による持続可能なまちづくりを進めます

【総合戦略】

基本目標1 経済を強くし、新しいひとの流れをつくる

(新ナガサキ創造推進部会)

【重点プロジェクトアクションプラン】

経済再生・少子化対策・新市役所創造

## 5 審議の進め方

後期基本計画及び第3期総合戦略の策定については、令和6年度に検討を進めてきた体系案に、具体的に何に取り組んでいくのか、計画進捗をはかる成果指標はどのような指標がよいかなど、具体的な計画案の検討を行った。

施策評価については、4部会において8つの基本施策及び総合戦略の4つの基本目標について評価を実施した。

新ナガサキ創造推進部会では、3つの重点プロジェクトアクションプランの中の主要な取組みの進捗状況について評価を実施した。

なお、いずれの部会においても、限られた時間の中でできるだけ多くのアイデアを出すため、班を分けてワークショップ形式で行った。

## 6 長崎市総合計画審議会開催状況

### (1) 全体会

#### ア 第1回

日時 令和7年6月30日(月) 18時30分～20時30分

場所 長崎市役所7階大会議室

議題 第五次総合計画後期基本計画の素案について

#### イ 第2回

日時 令和7年8月27日(水) 18時00分～20時00分

場所 長崎市役所7階大会議室

- 議題
- (1) 会長及び副会長の選任について
  - (2) 長崎市総合計画審議会の概要について
  - (3) 令和7年度の政策評価について
  - (4) 部会の設置について
  - (5) 部会長及び副部会長の選任について

ウ 第3回

日時 令和7年10月24日(金) 18時00分～20時30分

場所 長崎市役所7階大会議室

議題 人口ビジョン及び次期総合戦略素案について

(2) 第1部会(評価対象:まちづくりの方針A・B、特定目標)

ア 第1回

日時 令和7年5月30日(金) 9時30分～12時00分

場所 長崎市役所7階中会議室

議題 第五次総合計画後期基本計画の素案について

イ 第2回

日時 令和7年9月2日(火) 16時00分～18時00分

場所 長崎市役所7階中会議室

議題 【総合計画】基本施策A2及びまちづくりの方針A

【総合戦略】特定目標

の評価について

ウ 第3回

日時 令和7年10月6日(月) 10時00分～12時00分

場所 長崎市役所7階中会議室

議題 【総合計画】基本施策B3及びまちづくりの方針Bの評価について

(3) 第2部会（評価対象：まちづくりの方針D・E、基本目標3）

ア 第1回

日時 令和7年5月28日（水） 18時00分～20時30分

場所 長崎市役所7階中会議室

議題 第五次総合計画後期基本計画の素案について

イ 第2回

日時 令和7年8月28日（木） 18時00分～20時00分

場所 長崎市役所7階中会議室

議題 【総合計画】基本施策D2の評価について

ウ 第3回

日時 令和7年10月6日（月） 18時00分～20時00分

場所 長崎市役所7階中会議室

議題 【総合計画】基本施策E4及びまちづくりの方針D・E

【総合戦略】基本目標3

の評価について

(4) 第3部会（評価対象：まちづくりの方針F・G、基本目標2）

ア 第1回

日時 令和7年5月26日（月） 18時00分～20時30分

場所 長崎市役所7階中会議室

議題 第五次総合計画後期基本計画の素案について

イ 第2回

日時 令和7年5月28日（水） 9時30分～12時00分

場所 長崎市役所 7階中会議室  
議題 第五次総合計画後期基本計画の素案について

ウ 第3回

日時 令和7年9月1日(月) 18時00分～20時00分  
場所 長崎市役所 7階中会議室  
議題 【総合計画】基本施策F 4及びまちづくりの方針F  
【総合戦略】基本目標2 の評価について

エ 第4回

日時 令和7年9月30日(火) 16時00分～18時00分  
場所 長崎市役所 5階第1委員会室  
議題 【総合計画】基本施策G 2及びまちづくりの方針Gの評価について

(5) 第4部会(評価対象:まちづくりの方針C・H、基本目標1)

ア 第1回

日時 令和7年5月20日(火) 18時00分～20時30分  
場所 長崎市役所 7階中会議室  
議題 第五次総合計画後期基本計画の素案について

イ 第2回

日時 令和7年8月28日(木) 14時00分～16時00分  
場所 長崎市役所 7階中会議室  
議題 【総合計画】基本施策C 2及びまちづくりの方針C  
【総合戦略】基本目標1 の評価について

ウ 第3回

日時 令和7年10月1日(水) 10時00分～12時00分

場所 長崎市役所9階中会議室

議題 【総合計画】基本施策H2及びまちづくりの方針Hの評価について

(6) 新ナガサキ創造推進部会

(評価対象：重点プロジェクトアクションプラン(経済再生・少子化対策・新市役所創造))

日時 令和7年9月26日(金) 18時00分～20時00分

場所 長崎市役所7階大会議室

議題 重点プロジェクトアクションプランに関する審議について

## 7 審議会の取組みに対する総括的意見等

行政の取組みに対して評価を行うことは、計画をつくることと同様に重要かつ最優先の事項である。本審議会が市が行った政策評価について、中立的・専門的観点から、評価結果や評価の手法、その他評価全般に係ることについて意見を述べるとともに、行政では気づかない部分を市民の目線で見、市に意見することも目的としており、客観性に基いた政策評価制度の公正かつ円滑な運用と向上に重要な役割を果たしている。

また、第五次総合計画に掲げる、めざす都市像である「個性輝く世界都市」、「希望あふれる人間都市」の実現に向け、施策の展開に対するより効果的な取組みを提案することも重要な役割である。

市においては、本審議会での意見を市政に反映させ、施策の目的達成につなげるため、施策の進捗状況を適切に把握し、その課題や要因にも言及した内容をわかりやすく示すこと、意見を施策に反映できる仕組みをつくることなど、現在の評価手法の課題について考え、評価を効果的・効率的に運用するためのサイクルの継続的な改善に努めることを求める。

以上のことを踏まえ、今年度の本審議会の取組みについて総括的な意見を以下に述べる。

### (1) 後期基本計画の策定について

- ワークショップ形式で開催することにより、個性的な意見、クセがある意見も含め様々な意見が出て良かった。
- 資料についても、取組みの方向性と強み・弱みのつながりがロジカルに見えるものとなり見やすかった。
- 小さいことでも地道に続けることで大きいことを成し遂げることにつながると思う。頑張る人を馬鹿にすることなく、孤立させずに支えて共に歩む存在になっていくべき。今日の話し合いも小さな部分のことかもしれないが、きっと大きなことにつながる。
- 各部会を通じて話してきたものを他の部会の視点では別の考え方があるのだと気づいた。他の部会の委員を交えて話すのもいいのかもしれない。
- これまでも計画の策定に携わってきたが、策定手法に画期的な変化がみられ、目標とのつながりをより意識する手法となった。
- 問題解決型から作り上げる形に変わったと感じる。また、担当課も含め一堂に会してみんなで話す全体会となったことにも感動した。

- めざす姿をずっと作ってきたが、環境や平和など「しなくてはならない」と考えがちだが、そう考えない人もいることも理解し、反論に対しても説明できる論理構成を構築していくことが大事である。
- 長崎をよくしたいという気持ちを全員が持ってワンチームとして頑張ってくることができた。この当事者としての意識が大事である。みんなで学び合い、市が一生懸命やっていることに触れ、自分もその一員としてやっていければいいなと思った。

## (2) 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

- 令和7年度に総合計画審議会とまち・ひと・しごと創生総合戦略審議会が統合され、初めての会議となったが、総合計画と総合戦略の議論内容に被る部分が多かったので今後の評価の進め方などは考えていかなければならない。
- 課題については、ちょっとした対策では簡単に解決しないものばかり。解決策は見えているところから遠いところにあることもあるので、普段違う部会のメンバーで行ったように違った見方というものを提供できる対話の場になればと良いと思う。
- めざすべき姿で「成長」と言っているが、人口減少に歯止めをかけると言っていてそれは成長なのか？と引っかかる。理解はするが、いつまで使える表現なのかと思った。「成長」という言葉を委員1人1人も考えていただければ。

## (3) 施策評価について

- 長崎市の話をしているが、自分の家や地域の話をしているような気持ちになってきて、「何とかしなければ」という気持ちになった。これが長崎愛なのかもしれないと思う。
- 市の職員はいわゆる行政用語を当たり前の言葉として使っている表現があると感じた（事業名など）。
- まちづくりの方針Cは産業・環境・気候・国際性など変化が大きい分野である。そうした中でも若いひとのニーズをしっかりと汲み取っていくということは引き続き進めていただきたい。若い委員や傍聴者もいたが、委員も若い世代に刺激を与え、若い世代から刺激を受けながら発展する部会にしていきたい。

## 8 後期基本計画策定に関する意見等

### まちづくりの方針A

**私たちは「独自の歴史・文化を活かし、多様な交流と満足を生み出すまち」をめざします**

施策A1 地域の個性を守り、伝え、活かします

施策A2 交流のための都市機能を高め、賑わいを創出し、観光まちづくりを進めます

施策A3 国際交流を推進し、互いの文化を理解することで、国際性を豊かにします

#### ◆ 審議会における意見等

	素案(施策体系・取組みの方向性)について	成果指標について
A1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刺身の食べ方など伝統的な食文化も地域の個性として含まれるのではないか。</li> <li>・文化財は指定の数を増やすよりも、今指定しているものの指定区分を上げていく(市指定⇒県指定⇒国指定)という考えもあると思うので、検討してほしい。</li> <li>・「無形文化財」の表記がないが、入れなくてよいのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財指定件数の指標について、本当に価値があるものを指定すればいいので数値ではなく充実度が大事ではないか。保存整備件数の方が適しているのでは</li> <li>・文化財を市民が活用できる(使える)状態を表す指標にできるように検討してほしい。</li> </ul>
A2	(そのままよい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信も重要なので、DMO のInstagramなど、SNS に関する指標を設定してほしい。</li> </ul>
A3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人ニーズを把握する取組みが重要である。その際には国や年齢・性別など、セグメントを分け、それに応じたアプローチをすべき。そのセグメントと施策主管課のかかわり方・連携も重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアにどこまで頼るのかを検討した方がよいのではないかと。有料化・組織化して責任をもって取り組んでもらうのも大事である。その際に、通訳ガイドの資格者数などが指標になるのでは。</li> <li>・就職先が少ないなか、就職率は上がらない。留学生の事情も変わってきていることもある。受け入れ企業数、業種を増やしていく指標にしてほしい。</li> <li>・単純に留学生数などでもよいのではないかと。</li> </ul>

その他の意見	
A1	<p>(取組みの方向性①)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財を市民が日常的に活用できるようにするとともに、洋館の民間活用を通じて維持費を稼げる仕組みづくりが必要である。</li> <li>・歴史文化施設における情報発信について、民間との連携だけではなく他都市との連携等も検討してほしい。(世界に通用する「長崎らしさ」の発信)</li> <li>・学生が長崎のことを詳しく知らないような印象を受ける。大学等においても長崎のことを知る活動などを検討してほしい。</li> <li>・60歳以上が公的な施設に無料で入ることができる「いきいきカード」をもっと周知してもいいのではないか。</li> </ul> <p>(取組みの方向性②)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マンション建設等の都市開発と景観保全のバランスが大事である。</li> <li>・長崎は昔のまちなみが残っていて、暮らしの中に「写真映え」がある。景観について、市民も一緒に考えていけるような仕組みをつくれぬか。</li> <li>・景観条例は適宜見直す必要があるのではないか。</li> </ul>
A2	<p>(取組みの方向性①)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度は「長崎さるく博」から20周年であるため、ニーズに応じた「稼げるさるく」にするなど、コンテンツの高付加価値化を進めてほしい。</li> </ul> <p>(取組みの方向性②)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタジアムの取組みのサポートなど、スポーツ文化による交流を生むソフト事業の重要性が高まっている。</li> </ul> <p>(取組みの方向性③)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力あるコンテンツや活用を含め、あぐりの丘のPRが足りていないのではないか。</li> <li>・長崎市中心部と郊外の役割を区別することも必要である。中心部の発展と郊外の発展(中心部は歴史、郊外ではマリンスポーツやキャンプなど)のバランスを検討すべきではないか。</li> </ul>

A3	<p>(取組みの方向性②)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・外国人の暮らしやすさに向けた施策間や庁外組織との連携(防災情報の周知)</li><li>・外国人ニーズの把握の際に現在は留学生支援センターのアンケート(数年に1度実施)を参考にしているものの、+αでニーズを知る取り組みを検討したほうが良い。</li><li>・(在日中も帰国後も)留学生による長崎の発信(広島・長崎の平和の発信、ベジタリアン・ビーガン・ハラールなどに対応した料理が提供できるレストランの有無など)をしてもらうことができれば。それに対応するために研修の実施なども大事</li></ul> <p>(取組みの方向性③)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・グローバル人材の育成の際に、地域を知り世界へ出ていく「グローカル」の視点を入れてはどうか。</li></ul>
----	--

## まちづくりの方針B

### 私たちは「平和を愛し、平和の文化を育むまち」をめざします

施策B1 被爆の実相を伝え続けます

施策B2 核兵器廃絶に向け行動するとともに、平和の文化を醸成します

#### ◆ 審議会における意見等

	素案(施策体系・取組みの方向性)について	成果指標について
B1	<ul style="list-style-type: none"><li>・平和教育については、子ども向けだけでなく、親から子へも伝えてもらうことを目的として、大人への再教育の実施を検討してはどうか。</li><li>・「新たな技術」という表現について、具体的な取組みが分かるよう「〇〇などの新たな技術」としてはどうか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・指標として設定する必要はないが、被爆者数を毎年見ていくことは必要である。</li><li>・「日本国内での原爆展などの開催実績」や「ホームページへのアクセス数、資料のダウンロード数(修学旅行との相関関係などなにかのきっかけで増える可能性あり)」、「(被爆にかかる)論文・著書数」などを指標に設定してはどうか。</li></ul>
B2	<ul style="list-style-type: none"><li>・原爆は過去のこととして考えられているが、原爆＝核兵器であり、位置づけの見直しが必要なのではないか。</li><li>・「原爆は～」ではなく「核兵器である原爆は～」といった記載の仕方を検討してはどうか。</li><li>・めざす姿が漠然としていると感じる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「平和首長会議加盟都市数」について、数ではなく割合(加盟率)を指標としてはどうか。</li><li>・そのほかにも「(被爆にかかる)論文・著書数」「学校での取組み(発表会など)」「ターゲットを絞って行う意識調査の結果」などを指標に設定してはどうか。</li></ul>

その他の意見	
B1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被爆の実相をわかりやすく伝え、被爆遺構の回遊性を高めるため、モニュメントの把握・発掘をするとともに、日本の方も海外の方も点で行きたいところがあるものが必要ではないか。高齢者もわかる紙媒体のマップも必要である。</li> <li>・被爆の実相の伝え方は、数だけでなく視覚的にわかりやすい伝え方が必要であり、その1つの方法として戦争前の風景と戦争後の風景の比較を見せ、戦争が起きるとどうなるのかを伝えられるものにしてはどうか。(平和教育にも活用できるのでは)</li> <li>・被爆の実相を伝えるときに、長崎が「悲しいまち」という印象になってしまっていないか。小さい子どもには、ショックも与えてしまうことがあるため、伝え方を配慮してほしい。</li> <li>・被爆資料の保存強化に力を入れてほしい。被爆遺構をデジタル化することにより、資料館等に展示ができていないものの活用につながる。</li> <li>・関東からの修学旅行生が増えているので、東京大空襲との相互教育をしてはどうか。</li> <li>・年齢に合わせて段階を踏んだ教育とし、トラウマにならないよう、怖さだけを強調するものになりすぎないように配慮する必要がある。あくまで将来につなげるためには繰り返し平和教育ができることも重要である。</li> <li>・広島とも連携し、世代や国籍に合わせて VR 等を活用した体験型の学びがあるとよい。</li> </ul>
B2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的な場だけでなく、日本国内(長崎・広島以外)に向けても発信を強化すべき。</li> <li>・現在各国が保有している核兵器と長崎に落ちた原爆の威力などと比較して見せてはどうか。</li> <li>・あらゆる世代に、現在起きている戦争の発信をわかりやすく行うのはどうか。</li> <li>・平和を希求する声は世界に届いている。声を上げ続ける必要がある。</li> <li>・文化や音楽、スポーツをきっかけに平和について学んでもらう(平和に関する音楽や音声の読み上げなど)場をもっと増やす必要がある。</li> <li>・平和のハードルが高過ぎるのではないか。広い意味での平和を考える(「何気ない日常=平和」など)のがよいのではないか。</li> </ul>

## まちづくりの方針C

### 私たちは「人や企業に選ばれ、産業が進化し続けるまち」をめざします

施策C1 地場事業者の成長を支援します

施策C2 新たな産業活力を生み出します

施策C3 水産農林業を環境変化に強く次世代につながる持続可能な産業にします

#### ◆ 審議会における意見等

	素案(施策体系・取組みの方向性)について	成果指標について
C1	・流通や販売力の強化が重要である。ビジネスの基本は販売であり、行政がどのように支援できるかを明らかにすべきである。	・成果指標については、現状維持ではなく向上を目指す指標設定が望ましい。測りやすい指標と政策の最終的なゴールを示す指標のバランスが重要ではないか。 ・法人税(法人割)の増加など、事業者の収益向上を直接測れる指標を重視すべきではないか。 ・人流分析ツールなど新たな測定方法も活用し、より実態を反映した指標設定を検討すべきである。 ・歩行者通行量の指標については、新施設等によりこれまでとは人流が変わってくると見込まれるので、設定基準を明確にすべきである。 ・「法人市民税法人税割を課税された法人数」については、指標として数ではなく割合ではかる指標とした方がよいのではないか。
C2	・「人、企業を呼び込むこと」=「産業の強化」なのか。数に加えて「質」も重要なのではないか。	「企業誘致に伴う雇用増従業員数」という表現はわかりにくいので見直しを検討してはどうか。

C3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益性という視点を明確に打ち出すことが大切である。計画の表現として収益性の高い農業・漁業といった具体的な言葉を使うことで、持続可能性を高める方向性を示せるのではないか。</li> <li>・陸上養殖事業については、初期投資が高額であるため、自治体による設備投資への補助は難しい面があるが、新たな可能性として検討する価値がある。</li> <li>・施策名にある「環境変化」について、どういう「環境変化」を想定していて、もっとどういうことに取り組んでいくのか具体的に言及したほうがわかりやすいのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次産業(農業)での生産コストなどが市民にもわかるようなデータがないものか。実態が市民に伝わりにくいのではないか。</li> <li>・農林水産業については、所得向上を示す指標が特に重要である。</li> </ul>
----	---	--

<u>その他の意見</u>	
C1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付加価値向上が大切である。特に外国人観光客は高額消費する傾向があるため、工夫次第で更なる付加価値を生む可能性がある。</li> <li>・地元就職率向上のためには、職場環境の改善や地元企業の魅力発信が必要である。若者が地元に戻ってこない、または戻ってきてても定着しない課題がある。</li> <li>・県外に出た学生への情報発信や、高校生の保護者に向けた企業情報の提供も重要である。地元に戻って就職したい学生は割と多いのではないか。</li> <li>・デジタル人材の確保は全国的に難しく、人材の流動性が高い業界であるため、特別な対策が必要である。</li> <li>・知ってほしいことを伝えるためにメタバースの活用なども検討してはどうか。</li> <li>・農林水産物の高付加価値化が重要であり、高いマーケットを求める戦略が必要である。</li> </ul>

C3	<p>・漁業・農業については、収入保障がなく、燃料価格高騰などで経営が厳しい状況であり、所得向上策が必要である。漁業は自然相手の仕事で危険を伴うが、年収面での保障がない。</p> <p>・うまくいっていないことの「藻場や森林、農地の保全活動を行う人員の不足により、多面的な機能が低下している」ということだけでなく、そもそも後継者不足や農機具等の高騰などの問題があるのではないか。</p>
----	---

## まちづくりの方針D

### 私たちは「環境と調和した持続可能なまち」をめざします

施策D1 ゼロカーボンシティ長崎の実現に向けた取組みを進めます

施策D2 自然環境や資源を守り大切に社会の実現に向けた取組みを進めます

#### ◆ 審議会における意見等

	素案(施策体系・取組みの方向性)について	成果指標について
D1	<ul style="list-style-type: none"><li>・「森林資源の多面的機能を発揮させるため」という表現が目的として適切かどうか検討すべきではないか。森林のCO2吸収という観点からの記述であれば、エネルギー利用の視点も含めるべきである。</li><li>・「市民参加型アプリ」という表現について、個人が環境活動に参加するという意味合いが強いため、より適切な表現を検討すべきではないか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・電気自動車の普及率目標(25%)が現実的ではない。現状が0.5%程度から5年で25%は達成困難ではないか。</li><li>・充電インフラの整備数を指標にする方が現実的である。「充電インフラの整備促進を図ることにより電気自動車の普及を促進する」という書き方が適切ではないか。</li><li>・市役所自身の取組みを示す指標も必要である。市民・事業者と一体となった取組みを示す指標があるとよい。</li></ul>
D2	<ul style="list-style-type: none"><li>・「リーダーとなる人材の育成」という表現について、個人に負担がかかる印象があり、全体として環境意識を向上させる表現に変更すべきではないか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・リサイクル率だけでなく、ごみの総量を減らす指標も重要である。</li><li>・燃やせるごみや埋め立てるしかないごみの量を減らすことを目標とするべきではないか。</li></ul>

その他の意見	
D1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境ポイントやインセンティブを活用した参加促進の仕組みを検討するとよい。環境ポイントが何に使えるかなどのインセンティブを強調して市民に伝えると利用者が増えるのではないかな。</li> <li>・自治会単位でランキングなどが出ると環境への取組みについてのやる気等も出るのではないかな。</li> <li>・需要と供給のバランスが大事であり、電源の開発だけでなく、電化の推進やクリーンなエネルギーを使う視点も大事である。</li> </ul>
D2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代だけでなく、様々な世代が参加できる環境教育の機会を作ってほしい。</li> <li>・レジ袋からマイバッグへの移行に伴い、小さなビニール袋の使用が増えている現状を踏まえ、目的と意識の啓発が必要ではないかな。</li> <li>・自然環境は守るだけでなく、自然や文化財も含めた景観としてうまく PR することで、観光にもつながっていくのではないかな。</li> <li>・ゴミの適正な処理や減少には「自分たちのまちを大切にしたい」という気持ちが必要である。</li> <li>・環境活動を行った子どもたちを表彰することなどにより、まちの環境を大切にしたいという意識が自然に育つのではないかな。そういった取組みが長崎を好きになることにつながると思う。</li> <li>・自治会活動の際のゴミ袋については無料とするなど、個人利用と差をつけていいのではないかな。</li> </ul>

## まちづくりの方針E

### 私たちは「だれもが安全安心で快適に暮らし続けられるまち」をめざします

- 施策E 1 地域の連携・協力を促進し、防災体制を充実します
- 施策E 2 犯罪、事故などのトラブルに遭わない地域をつくります
- 施策E 3 快適な暮らしやすい市街地を形成します
- 施策E 4 移動しやすい環境をつくります

#### ◆ 審議会における意見等

	素案(施策体系・取組みの方向性)について	成果指標について
E1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急傾斜地崩壊対策の「申請が整わないことがある」や「実施条件が整うよう」、「危険ながけ」などの表現については市民にもわかりやすい表現を検討したほうがいいのではないか。</li> <li>・土砂災害、河川対策のみの記載となっているように見受けられるが、その他の想定も記載すべきではないか。</li> <li>・被災後の取組みについて方向性に記載しなくてよいか。</li> <li>・BCP(事業継続計画)における民間との連携など記載すべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土木建築面で企業との防災協定の数を指標としてはどうか。</li> <li>・急傾斜地に関する指標は設定しないのか。</li> <li>・避難所の過ごし易さをはかれる指標は設定できないか。</li> </ul>
E2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期基本計画の基本施策 E2 と E3 を統合しているが、めざす姿の表現が統合前のめざす姿を合わせるかたちになっているので、書き方について工夫ができないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「長崎市を犯罪の少ないまちであると感じる市民の割合」は主観的な指標であり、客観的に測れる指標が望ましいのではないか。</li> <li>・消費生活出前講座の受講者数の目標設定が前期基本計画と比較すると低すぎるのではないか。少なくとも前期基本計画と同程度か、それ以上を目指すべきではないか。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者教育の機会づくりだけでなく、消費者市民を育てるといった視点が必要ではないか。</li> <li>・子どもの見守り活動について、具体的な活動内容を記載してはどうか。</li> <li>・地域の防犯活動の担い手不足や高齢化の課題に対応する取組みを明記すべきではないか。</li> <li>・犯罪・交通安全・消費生活を同列に扱うのではなく、それぞれの特性に応じた取組みを記載すべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故死者数・重傷者数の指標は重大事故のみが対象とされている印象を受ける。事故発生自体を防ぐ視点が必要ではないか。</li> <li>・「犯罪・交通事故に遭うことなく暮らしている」という目指す姿と指標の関連性が弱いように思う。</li> </ul>
E3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・E の他の施策と比較しても字数が多く施策のボリュームが大きい印象を受ける。もう少し方向性を簡潔にまとめるなど検討したほうが良い。</li> <li>・めざす姿が「快適に暮らし、多様な住まい方を選択できる」とあるが、選択することで快適な暮らしになるのであれば順番が逆なのではないか。</li> <li>・「アセットマネジメント」という横文字の利用や、書きぶりの混在などがあるため、市民にもわかりやすい表現に直してはどうか。</li> <li>・下水施設の老朽化について記載はしないのか。</li> <li>・書いてある内容が市民から見ると当たり前のことになっている。「状況は厳しいが・・・」などの枕詞を付けた記載としてみてはどうか。</li> <li>・住まいについては、若い人を引き付ける魅力的な表現を検討していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その施策で測れる指標を設定すべきである。「住みたい」などだと、働くなどほかの施策の要素が入ってきてしまう。</li> <li>・指標の「住みたいと思う」とことと、めざす姿の「多様な住まいの選択」が繋がっていない。</li> <li>・「住みたい市民の割合」など住まいに関する指標については、全年齢対象としたアンケートだけでなく、人口減少対策の視点から若者に限定したアンケートを行ってもよいのではないか。</li> </ul>

E4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が使用する専門用語が多い印象を受けるため、市民にも分かりやすい表現としてほしい。</li> <li>・歩行者の快適性・安全性と良好な交通状況の両立を意識しつつ、「ウォーカブル」という視点にどう取り組んでいくか記載してはどうか。</li> <li>・取組みの方向性③について、タイトルと整合性をとった方がいいのではないか。なぜ道路整備をするのかその理由を突き詰めていくと方向性がみえてくるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備計画に対する進捗率は指標に設定できないのか。</li> <li>・成果指標を補修数にすると、老朽化するほど増えるため求める成果と指標にずれがあるのではないか。</li> <li>・供用すべき距離に対する割合を指標にしてはどうか</li> </ul>
----	---	--

<u>その他の意見</u>	
E 全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口が増加している頃に整備した設備が更新時期に来ており、当時とは財政状況や人口構造が異なることからすべてを存続させることはできなくなると思われるので、優先順位をつけながらやっていくことが重要である。</li> </ul>
E1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災イベント(防災グッズや防災食の使い方訓練など)を地域コミュニティ連絡協議会で実施している団体もあるが、予算の関係で実施出来ない地区もあるので、支援を検討してほしい。</li> <li>・避難所を職員だけで運営することは難しい場合もあるので、使い方を市民に知ってもらう取組みが必要である。</li> <li>・防災や見守り活動など事故にあう可能性があるものや危険が伴う取組みについては、ボランティアに頼り過ぎない方法を考えてほしい。</li> </ul>
E2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアではなく、民間の資本・手法を活用してビジネスとして責任をもって見守っていく考え方もあってはいいのではないか。</li> <li>・見守りの体制としてはネットワークやコミュニティが既に存在しており、市でそれらを把握して目的の重複・類似している団体をまとめるなど対応してほしい。担い手が不足している。</li> </ul>
E3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラの老朽化と予算の余裕がないことなどから、市街地環境の改善および生活利便性を維持していくためには体力が必要である。</li> </ul>

## まちづくりの方針F

### 私たちは「みんなで支え合い、だれもが健康にいきいきと暮らせるまち」をめざします

- 施策F 1 人権が尊重され、様々な分野で男女が参画するまちづくりを進めます
- 施策F 2 高齢者が安心して自分らしい暮らしを続けられる地域づくりを進めます
- 施策F 3 障害者が安心して自分らしく暮らせるまちづくりを進めます
- 施策F 4 こどもが夢や希望を持って健やかに成長できるまちづくりを進めます
- 施策F 5 原爆被爆者等の援護を充実します
- 施策F 6 生活困窮者等に必要な支援を充実します
- 施策F 7 こころもからだも健康で安心して暮らせるまちづくりを進めます

#### ◆ 審議会における意見等

	素案(施策体系・取組みの方向性)について	成果指標について
F1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LGBT なども含まれていることが分かる表現とできないか。</li> <li>・海外からの移住者の人権や多様性についても視点を入れるべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会全体で見ると男女平等であると感じている市民の割合」の目標値が基準値と同値に設定していることについて、目標としては低すぎる。減少傾向を食い止めるだけでなく、もっと高い目標を設定すべきである。</li> </ul>
F2	(そのままよい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「在宅での死亡率」という指標について、「在宅」の定義をわかりやすく示すべきである。自宅だけでなく施設も含めた「住み慣れた場所」という意味であることを明確にする必要がある。</li> <li>・「お住まいの地域の地域包括ケアシステムができていると感じている市民の割合」は抽象的で市民にとって理解しにくい指標である。</li> <li>・高齢者ふれあいサロンについては、延べ利用者数だけでなく、活動エリアの広がりも重要な視点である。</li> </ul>

F3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「障害者の重度化」という表現は「障害の重度化」または「障害者の高齢化」という表現に改めるべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害福祉センター診療所(小児科)の診療待機期間」を主要な成果指標として検討すべきである。現在の 9.2 ヶ月から 2 ヶ月への短縮は大きな成果となる。</li> </ul>
F4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分らしい育ち」とはどういった意味合いか。子ども自身が自分らしさを認識しているか。</li> <li>・子育て世代の精神的負担軽減の内容に「ひとり親のサポートを含む」ということを強調してはどうか。</li> <li>・保育士の処遇改善について記載してはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生数や婚姻数は率で表した方が良いのではないか。</li> <li>・「子育てを『父母ともに行っている』割合(未就学児保護者)」にしてはどうか。</li> </ul>
F5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原爆被爆者「等」について、何を想定しているのか市民が分かりやすい表現とできないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「原爆被爆者が十分な支援を受けていると感じる人の割合」や「原爆被爆者等の健康診断受診率」を指標としてはどうか。</li> </ul>
F6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者の定義が伝わりにくいのでは。</li> <li>・実際の取組み等が分かりにくいため、表現にもう少し具体性をもたせてはどうか。</li> <li>・子供に対する支援に記載はあるものの、大人の精神的なサポートができる体制支援についても取組みがあれば記載してはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策 E2 の指標「救済率」と表現を合わせて「助言によって救済できた割合」としてはどうか。</li> </ul>
F7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療に関するうまくいっていることの記載を、取り組みの方向性に合わせて、「提供体制」の記載に統一してはどうか。</li> <li>・健康づくりの視点では、うまくいっていないことの状況や指標に挙げていることから、「健・検診の周知工夫を進める」という視点を入れてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「二次救急患者を病院群輪番制病院で受け入れた日数」の指標については目標値などを見ても当然のものだと感じるの見直してはどうか。</li> </ul>

	その他の意見
F1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育は幼い時からの教育が重要であり、子どもの頃からの人権意識の醸成を強化すべきである。</li> <li>・相談窓口や支援センターの存在を市民に広く周知する取組みが必要である。市役所の取組みが知られないまま終わるのはもったいない。</li> <li>・情報発信はインターネットだけでなく、高齢者など対応が難しい方向けにアナログの手段も併用すべきである。ニーズに応じた情報発信が重要である。</li> <li>・インターネットや SNS の適切な使用方法について、子どもだけでなく大人向けの教育も必要である。</li> <li>・男性の講座への参加を促進すべき。</li> </ul>
F2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACP(アドバンス・ケア・プランニング)や人生会議について、市民への理解促進が重要である。聞きなじみのない言葉であっても、それを知ってもらうきっかけとして活用すべきである。</li> <li>・在宅での看取りに対する不安を軽減するため、医療・介護サービスのサポート体制があることを市民に周知する必要がある。</li> <li>・地域コミュニティとの連携を強化すべきである。各地区で推進している地域コミュニティ制度との関連性を明確にし、連携して取り組むことが重要である。</li> <li>・介護職員の人材確保は厳しい状況が続いており、給与面だけでなく、介護職の社会的地位向上などの取組みも必要である。</li> <li>・人材のマッチングが重要である。調査した後のデータの利活用も検討してほしい。</li> <li>・AI ロボット等を活用し人をケアできる仕組みづくりはできないか(人に相談しにくいことも AI 相手であれば相談しやすいこともある)。</li> </ul>
F3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害児等の診療待機期間の短縮は重要な課題である。医師の増員など体制強化が必要である。介護難民が増えていく懸念もある。</li> <li>・障害者と企業とのマッチングを改善し、就労支援を強化すべきである。</li> <li>・学校との連携も重要な視点である。教育委員会との連携を強化し、支援学校や一般学校での受け入れ体制を整備する必要がある。</li> </ul>
F4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会に、はじめは子どもも入っていたが今は入っていないので連携して取り組めないか。</li> <li>・子育て世代への情報発信については、PTA と連携して行っていくといいのではないか。</li> <li>・病児・病後児保育の制度充実に取り組んでほしい。</li> </ul>

F5	・支援内容の追加については、ニーズがあるものを調査しながら必要に応じて対象とできるようにしていきたい。
F7	・民間企業で取組みが進んでいる「健康経営」の発想を行政も取り入れてみてはどうか。

## まちづくりの方針G

### 私たちは「未来を創る人を育み、だれもが学び、楽しみ続けられるまち」をめざします

施策G1 新たな時代を生き抜く子どもを育みます

施策G2 だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります

施策G3 スポーツ・レクリエーション活動を推進します

施策G4 芸術文化あふれる暮らしを創出します

#### ◆ 審議会における意見等

	素案(施策体系・取組みの方向性)について	成果指標について
G1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「確かな学力」という言葉は市民には分かりにくいのではないか。この言葉は知識や技能だけでなく、学ぶ意欲や課題解決力なども含む総合的な能力を指すが、より分かりやすい表現にできないか。</li> <li>・不登校の子どもを含めたすべての子どもが学ぶ機会等について記載すべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒のうち、出席扱いとなっている児童生徒の割合を指標としてはどうか。</li> </ul>
G2	(そのままでよい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実的な目標設定も大切だが、より高い目標を掲げることも検討すべきである。</li> <li>・「自発的に学ぶ」と「学びを通じた地域づくり」は段階的な関係にあるのでは。</li> <li>・まずは自分自身の人生を豊かにして、結果として地域に還元されていくという視点が重要である。</li> </ul>
G3	(そのままでよい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツを実施している市民の割合が低い。スポーツの定義について市民の認識との相違があるのではないか。「運動・スポーツ」ではなく「体を動かす」にしてはどうか。</li> </ul>

G4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「芸術文化」という表現は固く感じる。</li> <li>・「芸術文化活動の発展と促進」について、もう少し具体的に記載できないか。</li> <li>・芸術文化の活性化の取組みについて、スピード感を出してほしい。</li> </ul>	(そのままよい)
----	--	----------

<u>その他の意見</u>		
G1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの学力向上のためには教員の指導力向上が必要である。一方で先生方の働き方改革などの現実的な課題もあるため、学校サポーター制度などの有効活用を進めてほしい。</li> <li>・子どもの国語力向上のために本に親しむ機会を増やすべきである。図書館司書の配置を増やすなど、読書習慣を育む取り組みを強化してほしい。</li> <li>・フリースクールやオンライン学習など、多様な学びの場を認める姿勢が重要である。</li> <li>・地域コミュニティ設立時には子どもたちの意見を聞いたが、進むにつれて子どもの参加が少なくなっている。子どもの意見を継続的に取り入れる仕組みづくりが必要である。</li> <li>・地域で育てる環境づくりが重要である。</li> <li>・自然とふれあう施設との連携が必要ではないか。</li> <li>・外国籍の児童生徒への支援を充実させるべきである。</li> <li>・多様な背景を持つ人々との共生を学ぶ機会を提供すべきである。</li> <li>・企業の CSR 事業と連携してボランティア支援を受けるなども検討してはどうか。</li> </ul>	
G2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館や科学館、図書館などの社会教育施設をより使いやすくする工夫が必要である。</li> <li>・土日の開催やオンラインの活用など、より多くの人に参加できる環境づくりが求められる。</li> <li>・若者が自分たちで考えて企画し実現できる場が必要である。</li> <li>・学生ボランティアと地域ニーズをマッチングする仕組みを強化すべきである。</li> <li>・図書館などの施設はとても良いが、もっと多くの人に知ってもらう必要がある。</li> <li>・民間施設との連携や SNS などを活用した情報発信の強化が必要である。</li> </ul>	

G3	<ul style="list-style-type: none"><li>・施策間や関係機関(学校など)との連携を意識して進めてほしい。</li><li>・スポーツ推進委員(非常勤職員)の知名度向上のため活動内容を周知すべき。</li><li>・スポーツを見る機会が増えていることは良い傾向である。</li></ul>
G4	<ul style="list-style-type: none"><li>・文化芸術については、後回しにされがちである。</li><li>・文化芸術で若者を呼び込む、長崎市に残ってもらう仕組み・体制づくりができないか。</li></ul>

## まちづくりの方針H

### 私たちは「参画と協働によるまちづくりと確かな行政経営を進めるまち」をめざします

施策H1 市民と情報共有しながら参画と協働によるまちづくりを進めます

施策H2 市民に信頼される市役所にします

#### ◆ 審議会における意見等

	素案(施策体系・取組みの方向性)について	成果指標について
H1	<p>・施策を「市民と情報共有しながら参画と協働によるまちづくりを進めます」としている一方で、めざすすがたについては「市民が～」として始まっていて、市民の立場からは、つながりがわかりにくいのではないか。</p> <p>(※市民＝行政・自治体を含むもの、という考えは理解しつつも表現は何とかならないか)</p>	<p>・市民意識調査の回答率は約 50%であるが、高齢者の回答率が高い傾向にあり、若年層の意見が十分に反映されていない可能性があるのではないか。また、若年層に特化した指標設定も重要で、全体の数値よりも 20 代の参加意向の変化に注目すべきである。</p> <p>・「参加したい」という意識と実際の行動の間にギャップがあるのではないか。意識だけでなく実際の参加につなげる取り組みが重要である。</p>
H2	<p>(そのままよい)</p>	<p>・財政運営のための基金残高の標準財政規模に占める割合(目標 11.25%以上)について、人口減少下での達成は厳しいが必要な指標である。</p> <p>・男女共同参画や管理職の女性比率など、多様性に関する指標の検討も必要なのではないか。</p> <p>・キャッシュレス決済の導入など、デジタル化の進展は見られるものの地域格差がある。</p> <p>・ウェルビーイング指標も検討してもいいのではないか。</p>

	その他の意見
H1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性を反映した活動が重要である。</li> <li>・地域活動の担い手不足と後継者問題が深刻な課題となっており、「活動している人はいるが自ら進んで活動する人が少ない」という現状にある。</li> <li>・長崎市への愛着や誇りを育む取り組みが市民参画の基盤として重要である。</li> <li>・長崎市に住んでいない人から長崎市は素晴らしいと言われることが多いが、市民自身がその価値を実感できていない。</li> <li>・自治会にはいるのが「怖い」という認識があるのではないか。新しい「自治会」のかたちを見出していく必要があるように思う。</li> <li>・PTA の加入率は減少しているが、そういった地域の地域活動は相関して減少しているのではないか。</li> <li>・次の世代の人材確保に向けた改善が必要である。</li> <li>・若い世代は地域コミュニティに対しデメリットを考える傾向があるように感じるが、そういう世代にいかにかに伝え参加してもらうかが重要。</li> <li>・地域活動に関わる人が、多くの団体において重複して役職についている現状があるので、もう少し考えてほしい。</li> <li>・市民への情報提供は SNS など多様な媒体の活用が必要。特に若年層へのアプローチとして、デジタルツールの活用は重要である。</li> <li>・外国人住民への情報提供に関しては「やさしい日本語」の普及に併せ、多言語での対応が必要となる。自治会レベルでの多言語対応には限界があるため、市全体としての取り組みが求められる。</li> </ul>
H2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政 DX の推進について、市役所の建て替えを機にデジタル化が進んでいるとのことだが、「その効果が市民や職員に十分に実感されているか」、「DX が職員の業務効率化に実際につながっているのか」が重要である。</li> <li>・「心理的安全性」の構築やハラスメント防止など、働きやすい職場環境整備が重要であり、安心して働くことが生産性の向上につながる。</li> <li>・職員のモチベーション向上のため、各部署のミッションを明確化し、自分の仕事が生産性にどう貢献しているかを実感できるような取り組みが重要である。</li> </ul>

## 9 第3期総合戦略策定に関する意見等

### 基本目標1 人・企業・投資を呼び込み、経済を再生する

- 具体的施策（1）地場企業・産業の支援  
 具体的施策（2）新たな産業の創出  
 具体的施策（3）交流の進化  
 具体的施策（4）移住促進・関係人口の創出・拡大

#### ◆ 審議会における意見等

	意見内容
(1) 地場企業・産業の支援	<p>（全体に対する意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎市には5つの4年生大学があり、大きな強味である。企業との連携、大学との連携といった単発の連携ではなく総合的に交流・連携するシステムを作り、大学の知を活用することが大事である。</li> <li>・若い人を引っ張っていくリーダーを育成することが大事。</li> </ul>
① 稼ぐ力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近では長崎でつくられたものでも原材料は県外のものであったり、長崎のものでも県外で加工されていたりするものが多い。長崎独自の魅力ある製品をつくる際には、長崎のものを使って、長崎でつくるところをしっかりとすることが地域で稼ぐということだと思ふ。</li> </ul>
② 人手不足対策を含む働き方・職場改革等の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生だけでなく、中学生の段階から長崎の仕事情報を提供するべき。</li> <li>・学生が出て行って、戻ってきていない。県外の大学へ積極的にアプローチをするべき。</li> <li>・人手不足対策として、給料だけではない魅力を伝えることが大切である。いきなり移住は難しいと思ふが、二地域居住や拠点生活とあるように、まずはちょっと行ってみるといったアプローチもあり得ると思ふ。仕事だけではなく、住まいや子育て等、すべては繋がっている。</li> <li>・長崎の国際都市としての歴史を活かし、外国人もどんどん受け入れる方針でいいと思ふ。また、単なる人材活用ではなくその家族みんなが一緒に楽しんで長崎で暮らすことが大事だと思ふ。</li> <li>・地域をキャンパスにして学ぶような地域と大学との連携に対しても支援をしてほしい。</li> <li>・大学生への県内企業情報が不足していると思ふ。大学と企業のマッチングも強化していくべき。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文科省がデータサイエンス系の学部を展開するよう動いている。その学部で育った学生に合わせた取組が必要だと思う。</li> </ul>
③ 水産業・農林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI を活用した無人造船や養殖の自動化など水産業の DX 化を推進すべき。</li> <li>・漁業技術のデジタル化により技術継承ができる仕組みを構築したほうがよい。</li> <li>・長崎を魚だけでなく、水産技術の面でももっとアピールしてよいと思う。</li> <li>・魚料理をブランディング化・高付加価値化して、強く打ち出せたら良いのではないか。素材がいいのは分かっているため、もっと磨く方法がたくさんあるはず。</li> <li>・合併地区の農業や水産業は大きく減少している。収入面で厳しい構造になっているため、人が集まらない。お金も大事だが、やりがいについてもっと打ち出すことも必要ではないか。</li> <li>・若者が「儲かる」と思えることが大事。</li> <li>・生産者と消費者が交流すると利用者が増える。その過程が分かるからだと思う。双方の対話ができることが大事だと思う。</li> <li>・温暖化で獲れる魚種が変わってきている。まず環境に対応していくという部分での安定性を作れるように施策にしていくべき。</li> </ul>
(2) 新たな産業の創出	
① イノベーションを牽引するプロジェクト・スタートアップ創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーション拠点のようなものをつくって、そこで開業するなら行政が手厚く支援するような仕組みを作ったらいと思う。</li> </ul>
② 成長分野の強化	(そのままでよい)
(3) 交流の進化	<p>(全体に対する意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナイトタイムエコノミーの活性化とそれに合わせた夜型人材の育成もよいと思う。</li> </ul>
① 受入態勢の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャパネット(サッカーやバスケット)との連携を意識して取り組むべき。</li> <li>・「道の駅」や朝市・直売所を街中につくってほしい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜になると店が開いていないため、ホテルに直行するしかないという声をよく聞く。観光客向けだけでもなんとかならないのかなと思う。</li> </ul>
② 高付加価値化による消費単価の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の進化や高付加価値化と合わせて、地産地消も大事である。</li> </ul>
③ 戦略的な誘致・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源の再発見も必要だと思う。長崎の人が長崎の魅力を一番知らないのではないかなと思う。そこから、伝え方次第で強い価値が生まれると思う。</li> </ul>
(4)移住促進・関係人口の創出・拡大	
① 移住希望者に対する支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信をして待つだけでなく、積極的に出向いて行って、何かしらの体験をしてもらうことが大事だと思う。</li> <li>・実際に住んでみないと良さが分からないため、お試し移住の制度をより積極的に発信すべき。</li> <li>・移住後に人間関係で悩むことが多いので、移住者と地域コミュニティとのマッチングサービス等で、移住者がその地域の人に溶け込むことができればいいのではないかな。</li> <li>・どこの自治体も移住者を呼び込もうとしている。長崎独自の PR や戦略が必要だと思う。</li> <li>・長崎は土地や家賃が高いので、働いたら長崎だが住むなら諫早、となっている。空き家の有効活用等で若い世代への住居支援が必要だと思う。</li> </ul>
② 域外の人材と多様で継続的に関係する機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外に出て行った若い人も長崎が嫌いになったわけではないと思う。外にいる人の方が、いいところ悪いところもよく分かると思うので、そういった人と何とかつながり、様々な意見を聞けるといいと思う。</li> </ul>

## 基本目標2 こどもをまんやかに、みんなで支え、育てる

具体的施策（1）結婚希望者への支援

具体的施策（2）こども・子育て支援

具体的施策（3）教育環境の充実

### ◆ 審議会における意見等

	意見内容
(1) 結婚希望者への支援	
① 出会いの場の創出、機運の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和型の「結婚→出産→子育て」のライフコースをたどる人が減少し、結婚しない選択をする人が増えている。その理由から考える必要がある。</li> <li>・婚活イベントは参加しやすいような仕組みが大事だと思う。自然体験を含めた活動はどうか。長崎の自然を活かしたのも良いと思う。</li> <li>・マッチングシステムについて、市独自のものがあってもよいのではないか。</li> <li>・婚活イベントは行政がやっているから安心だという声も聞く。お金をかけて、地道に引き続きやっていくべきだと思う。</li> </ul>
(2) こども・子育て支援	<p>(全体に対する意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに関するあらゆる手続きの窓口を一元化するべき。</li> <li>・良い支援制度があっても、受け手に届いていないと思う。支援内容の可視化が必要だと思う。</li> </ul>
① こどもの権利の尊重と自分らしい育ちの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後こども教室は非常に充実した活動をしていると思うので、今後も継続してほしい。</li> <li>・今ある児童公園はこどもが遊びにくい環境になっている。こどもが自然と集まり、それを見て子供が欲しいと思う人が増えるような、地域全体で盛り上がっていくような、そういう公園をつくれたらいいと思う。</li> </ul>
② 妊娠・出産・育児への切れ目のない支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもを産みたいけど産めないと思う理由は、やはり経済的な問題だと思う。</li> </ul>

<p>③ こども・子育て家庭への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活が困窮しなければ補助がないというのではなく、もう少しメリハリのついた形での優遇策があれば安心して子育てできる環境に繋がると思う。</li> <li>・物価高騰により家計に占める生活費の割合が増加し、教育にかけるお金が厳しくなっている。児童手当だけでは不十分である。制服代、部活動費、クラブチーム費用といった教育費への支援も考えてほしい。</li> </ul>
<p>④ きめ細かな対応が必要なこどもと家庭への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり親支援だけでなく、シングルマザーを最初から選択する人への支援も必要だと思う。福岡にはそのような人に出産する時点から仕事までの一体的な支援がある。こういった支援をしていますよ、というのが見れば、相談もしやすくなる。</li> </ul>
<p>⑤ まち全体でこども・子育て家庭を応援する機運の醸成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共働き世帯の増加により、子どもを見守れない状況が増えている。学童保育や放課後児童クラブ、登下校時の見守りなどがあるが、地域の担い手がなかなかいないという問題もある。</li> <li>・地域で子育てをしようということであれば、大人の意識も変えていかなければならないと思う。そういう文化・空気を作っていく必要がある。</li> <li>・子ども真ん中社会という意識を醸成することを市民全体にしていくことが大事だと思う。</li> <li>・コロナや気候変動による屋外活動の制限などもあり、今のこどもたちはコミュニケーションが不足してしまっている。</li> </ul>
<p>(3) 教育環境の充実</p>	
<p>① 児童生徒の「確かな学力の向上」や「健やかな学び」のための教育環境の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教職員の指導力向上」という漠然とした表現ではなく、教職員のDX対応力の向上を明記すべき。</li> <li>・教育・保育を受ける側だけでなく、提供する側の人材確保への支援も行ってほしい。</li> <li>・先生にとって本来の教育業務以外の事務作業が増加している。生徒と向き合う時間や教育のための時間を確保できるように、事務作業などはAIやDXを活用すべき。</li> <li>・小→中→高→大学→就職という各段階での接続が不十分である。いろんな特性がある子に対し、これまでにどのような学びをしてきたのかを理解し、接続を意識して、多様な学びを進めるべきである。</li> <li>・校区について、もう少し柔軟に考えられないか。小学校区・中学校区ときめられていて、横の繋がりが欠如していると思う。</li> <li>・AI等のデジタルばかりに頼るだけでなく、アナログとのバランスも大事だと思う。今の小学生はパソコンで文字を早く打つことはできるが、逆に文字を書く力は低下しているとも聞く。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化が進み、色々な情報にアクセスできるため、子どもを有害な情報に近づけない対策も必要だと思う。</li> <li>・デジタル教材について、現在使われている全国统一のものもよいが、今後、長崎市や長崎県のデータや歴史もきちんとデジタル教材にして使用することで、それが子どもたちの地域への愛着や知識に繋がっていくと思う。</li> <li>・平和教育は時間をかけてやっていると思うが、人権教育はほとんどやっていないと思う。小さいころからもっと人権教育をしていく必要があると思う。</li> </ul>
② 児童生徒が安全・安心に学べる教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの活動を確保するためには、体育館の冷房設備等、気候変動に対応していくことも重要だと思う。</li> </ul>
総括指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、自分が幸せだと思う割合が令和6年度に 95%というのは高すぎるのではないかアンケート方法や切り口を変えた方がよいのではないか。</li> <li>・「そう思う」と「どちらかというと思う」を合算した数値で、誘導的ではないか。玉虫色の指標では施策の必要性が見えにくくなる。</li> <li>・指標にある「子育てが楽しいと思うときが多い割合」について、楽しい時もあるし、つらい時もある。つらい時にそれが子どもに伝わってしまうこともある。すごく大事な視点だと思う。</li> </ul>

### 基本目標3 まちの基盤を整え活かし、暮らす魅力を高める

具体的施策（1）安全安心で暮らしやすいまちの基盤づくり

具体的施策（2）市民が主体の暮らしやすい地域づくり

具体的施策（3）地域資源を活かした魅力あるまちづくり

#### ◆ 審議会における意見等

	意見内容
(1) 安全安心で暮らしやすいまちの基盤づくり	
① 都市機能の維持・集積	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市機能の「維持」と「集積」は相反すると思う。商業やエンターテインメント機能は集積し、医療・福祉・子育ては地域に残すという意図は理解できるが、表現がわかりにくい。</li> </ul>
② 地域をつなぐネットワークの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス路線が大幅に減っている。経済的には合理性がないんだろうと思うが、移動が一番大事だから、もっと力を入れてほしい。</li> <li>・バス事業者として最大の課題は運転手不足である。</li> <li>・乗り合いバス事業では数億円の赤字も出ている。金銭的な行政のバックアップがないと厳しい。</li> <li>・最終バスが早く不便を感じる。運転手不足の解決や自動運転の実用化ができればもう少しよくなるのではないか。</li> <li>・MaaS や自動運転も実用化が進んでいる。小型モビリティのような移動手段をスタジアムシティなどで活用できるのではないか。</li> <li>・徒歩圏内での買い物が困難になった高齢者が増加している。公共交通がない地域への対応が課題である。</li> </ul>
③ 安全・快適な住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家や空き地を農地に活用できないか。やりたい人は結構いると思う。</li> <li>・空き家バンクはマッチングには利用できるが、大分傷んでいるので改修が大変。</li> <li>・長崎は高台が多いので、バリアフリー化を進めてほしい。消防庁との連携や自治会との情報共有も重要だと思う。</li> </ul>

(2) 市民が主体の暮らしやすい地域づくり	
① 地域コミュニティの活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅でリモートワークをしている人は仕事での人間関係が薄い分、地元のコミュニティへ参加をする。そのような地元にながら仕事ができる企業を誘致することで、地域コミュニティも活性化するのではないかな。</li> <li>・隣人とのコミュニケーションも希薄化している。まずはそこからではないかな。</li> <li>・自治会だけでなく、お祭りのようなつながりができるコミュニティも大事にしていくべきではないかな。</li> <li>・商店街のお祭りとか、長く続いているところもある。そういったところを支援しながら、連携していけたらいいと思う。</li> <li>・振興住宅地では地域活動が空白になってしまっている。地域コミュニティで何かを一生懸命に取り組むもの（諏訪のおくんちとか）があれば、自然とまとまって、若い時にそれを経験した人たちが大人になって集まってくるので、地域も合わせて育つし、維持ができると思う。きっかけが必要だと思う。</li> <li>・地域の人や関係団体、消防団が楽しく協働することが大切だと思う。ランタンや精霊流し、くんちなど、長崎の祭りが若者を引き付けるきっかけになると思う。</li> <li>・長崎らしい教育が重要。年配者が大事にしている人のつながりや助け合いの良さを若者に伝える必要がある。</li> <li>・班長の順番や付き合いの負担から、自治会を脱退する若者が増えており、後期高齢者が自治会活動を支えている。自治会加入のメリットが見えにくく、加入促進システムとあるが、具体的な対応が必要である。</li> <li>・長崎の歴史的な背景を活かし、外国人との共存をうまく進めることで、お互いに良い関係性を築けるのではないかな。</li> </ul>
② まちづくりの人材育成及び協働の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティで実際に活動しているのは 70 代の方が中心であり、後継者の育成が必要だと思う。</li> <li>・地区や長崎に対する愛着は、子供のころから持ってもらうことが大事だと思う。</li> </ul>
③ 地域防災力の向上	(そのままでよい)
(3) 地域資源を活かした魅力あるまちづくり	<p>(全体に対する意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代だけにターゲットを絞らず、幅広い世代を対象とした施策も必要ではないかな。</li> </ul>

① 学びの場の魅力 向上	(そのままよい)
② 楽しみの創出	(そのままよい)
③ 地域資源の磨き 上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古い建物は長崎の街の歴史でもあるため、大切に作る仕組みを作ってほしい。解体届時に再検討する仕組みなどがあってもいいと思う。</li> <li>・歴史的建物も維持が困難で所有者が手放すケースが多いと思う。</li> <li>・中心部以外にも文化財などの地域資源も掘り起こして育てる必要がある。</li> </ul>

## 10 施策評価に対する意見等

### 【総合計画及び総合戦略】

#### まちづくりの方針A

私たちは「独自の歴史・文化を活かし、多様な交流と満足を生み出すまち」をめざします

(1)「基本施策 A2：交流のための都市機能を高め、賑わいを創出し、観光まちづくりを進めます」および「特定目標 交流の産業化」についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
全体	・長崎駅前交通広場・高架ひろばでの情報発信をしてはどうか。	・観光地は観光客だけのものではなく、市民のものでもあるという視点が必要では。
1-① 長崎独自の歴史・文化、 景観の活用	・ランタンフェスティバルに使う電力に再生可能エネルギーを活用してはどうか。 ・ランタンフェスティバルにかかる財源をいかに確保するか。協賛を集める際には協賛のメリットがあるものとすべき。	・イベントスタッフなどの負担にも宿泊税の活用をできるようにするなど宿泊税の用途を再検討してはどうか。
1-② 多様な分野における魅 力の創出	・新たなコンテンツを一過性のものとせず、定着させるような工夫が必要である。 ・「人との出会い」「人とのつながり」を感じられるコンテンツの創出(さるくのような市民とのふれあい・おもてなし) ・イベント時に出島表門の広場の出店の無料化など市民還元も検討しては。 ・コンパクトなまちを活かした取組み(イベント会場をセッティングしなくてもまち全体を会場とするなど) ・ランタンフェスティバル開催期間が固定されたことを発信・セールスに生かす。	・民間と連携するにあたって、民間の考えとのギャップはないのか。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くんちやパーロン、サッカーなど一体感の醸成につながるコンテンツを市民の文化として定着させる。</li> </ul>	
2-① 戦略的な魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS やネットなどの分析を更に行う必要がある。</li> <li>・イベント等のアーカイブ配信をしてはどうか。</li> <li>・閑散期に集客イベントをしてみてもは。</li> <li>・観光スポットを観光客だけでなく市民も楽しめるように工夫しては。</li> <li>・子どもたちに長崎の魅力を伝える。</li> <li>・ショート動画を活用してはどうか。</li> </ul>	(意見なし)
2-② MICE誘致における連携強化	(意見なし)	(意見なし)
3-① 交流のための都市機能の向上	(意見なし)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎市の補助金を利用して大学生と居住地インバウンド対応のエリアマップを作っているのを活用しては。</li> </ul>
3-② 安全安心で快適な滞在環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り換えが楽になるモデルケースをつくっては。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲佐山へ行くルートが分かりづらいのでは。</li> </ul>
4-① 観光客やMICE参加者等の周遊・滞在の促進による消費拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズは「商品購入」から「体験型」に代わってきている。トレンドにあった取組みに転換する必要がある。</li> <li>・アウェイチームへのおもてなしを強化する必要がある。</li> <li>・「稼ぐ力」とは地元のモノやサービスが良く売れる(経済効果・人数・金額)ことだと思ふ。</li> <li>・インバウンド客が長崎市民の生活を楽しめるようなコンテンツ(食・ルートなど)を作ってはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食店が閉まる時間が早い。</li> <li>・21 時以降にスタジアムからまちなかへ行くバスが少ない。</li> </ul>

<p>4-② 観光まちづくりの推進 体制強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光×エンタメ資源の磨き上げを行う必要がある。</li> <li>・市民みんなが観光案内人となるような仕組みを作ってはどうか。教育委員会と連携し、小中学校向けおもてなしマニュアルを作成するなど。</li> <li>・まちなかのにぎわいをつくるため必要な事業者のニーズを調査する。</li> </ul>	<p>(意見なし)</p>
------------------------------------	--	---------------

(2) その他の施策についての意見

	<p>取組みの改善に関する提案</p>	<p>その他</p>
<p>A1 地域の個性を守り、 活かし、伝えます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低山登山には最適なまち。坂を活かしたイベントを開催してはどうか。</li> <li>・若い視点から見る魅力の発信を強化してはどうか。</li> </ul>	<p>(意見なし)</p>
<p>A3 国際性を豊かにし ます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド客との交流を通じてグローバル教育をしてはどうか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎は世界とつながっているということが郷土教育やシビックプライドにつながる</li> </ul>

## まちづくりの方針B

### 私たちは「平和を愛し、平和の文化を育むまち」をめざします

#### (1)「基本施策 B3：平和の文化を醸成します」についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平和の文化」を「〇〇ができる日常が平和」など例示することで理解しやすくなるのでは。</li> <li>・地域や団体・個人が「できることをやる」ことが大切。</li> <li>・著名人に発信してもらうことも検討してはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平和」施策の目的をしっかりと見据えることが大事ではないか。「反核」等であれば取組みが分かるが、「平和」というと取組み・行動が不明確。</li> <li>・困っている人を助ける気持ちが争いを産まないことにつながるのでは(戦争だけでなく、災害もきっかけ)。</li> </ul>
1-①機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平和の文化」がどういうものであるかを明確にすべき。</li> <li>・「平和のために具体的な行動に結びつけられていない」とあるが何を成果とするか明確にした方が良いのでは。</li> <li>・平和について考え、ボランティアとして参加した人のインタビューも人々の関心を引くのでは。</li> <li>・県・市職員も朗読を聞いてみてはどうか。</li> <li>・平和団体に会場利用料のサポートなどしてもよいのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントなどを通じ、平和について気づき、考えることも大事なので、多くの人が来場してくれたことにも意味がある。成果として評価してもよいのでは。</li> <li>・平和イベントの参加者も評価されるべきなのは。</li> <li>・クスノキプロジェクトの取組みはとてもよかった。参加した人がそれぞれに何かを感じたのでは。</li> </ul>
2-①人材の育成と活動機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和活動をしていた学生に卒業後も思い出してもらうきっかけを作ってよいのではないか。</li> <li>・平和に関する活動の成功体験を伝えてはどうか。</li> <li>・活動している人の裏舞台を市民に見えるようにすれば、「自分にもできるかも」につながるのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての世代が活動しやすいような体制・雰囲気づくりが必要ではないか。</li> </ul>

(2) その他の施策についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
B1 被爆の実相を継承 します	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被爆の実相を「継承すべき」とする理由を説明したほうがよいのでは。被爆者や被爆体験者などから直接話を聞くことができない時代になってきている。</li> <li>・若者以外もどのような行動が平和につながるか分かるようにしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「長崎を最後の被爆地に」と言い続け、本当にその通りにできていることは当たり前ではない。これは最大の評価では。</li> </ul>
B2 核兵器廃絶の実現 に向け、着実に歩み を進めます	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原爆(atomic bomb)＝「核兵器(nuclear weapons)」と認識することで、過去の原爆(今の呼称ではない)と今の核兵器がつながって見えてくるのでは。身近に戦争体験者がいない子どもたちや世界の人々にもわかりやすいのでは。</li> </ul>	(意見なし)

## まちづくりの方針C

### 私たちは「人や企業に選ばれ、産業が進化し続けるまち」をめざします

(1)「基本施策 C2：人や企業を呼び込み、新たな事業を創出して、産業を強くします」および「基本目標1 経済を強くし、新しい人の流れをつくる」についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
全体	・「学び、暮らし、楽しむ魅力」として、楽しむ場というのは施設だけでなく、ホールや MICE を活用した展示展覧会などの数も指標とできるのでは。	(意見なし)
1-① 長崎の強みを生かした 企業誘致	・どの企業を誘致したいかの方向性明確化が必要。 ・研究開発拠点・IT 関連企業など若者に魅力的な企業誘致が重要では。 ・既存施策と将来ビジョンの接続、企業誘致戦略の見える化をすべきでは。	・企業立地を進める上での課題がある(用地不足、廃校活用などのアイデアはあるが、可能性と制約)
1-② 誘致企業に対する立地 後フォローの充実	・行政だけでなく民間企業と連携し、課題を共有する仕組みが必要では。 ・ニーズに合う人材確保支援が必要では。	(意見なし)
2-① 新規事業創出に対する 支援体制の構築	・地場企業が新分野へ挑戦する際の情報不足・人材不足という課題がある。 ・セミナー等の実施は評価されるが PDCA 管理の強化が必要。 ・新規事業のアイデア創出支援の強化・その環境づくりが必要。	・産学官金連携の体制づくりが重要である。
2-② スタートアップの機運醸 成	・アイデア段階から支援する体制構築や学生・若者の挑戦機会の拡大が必要。 ・展示会・交流会等による知識獲得の場づくりが必要。 ・市独自の強みを活かした起業環境づくりが必要。	(意見なし)
3-① 移住者に対する支援	・移住者の重視要素(仕事・住まい・公共交通などの生活利便)に基づいて長崎らしさを強調した施策強化が必要 ・地域とのつながり(インターン・交流型ワーケーション)の形成が重要。 ・若年層・女性を中心としたニーズ分析の強化も必要では。	・地域特性(坂・交通利便性)を踏まえた丁寧な案内をすることで興味を持ってもらいやすくなるのでは。

3-② 移住に関する情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットの明確化とニーズの把握の上での多様な PR が必要ではないか。</li> <li>・長崎市内でも各地区に分けた特徴・良さを PR してはどうか。</li> </ul>	(意見なし)
3-③ 関係人口の創出・拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住検討期間中の支援の PR も強化しては。</li> <li>・ワーケーションを通じたつながりを構築して移住につなげていくことが大事では。</li> </ul>	(意見なし)
3-④ 移住後のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間ベースの拠点があると良い。</li> <li>・転出者の転出理由についても分析を行うこと。</li> <li>・移住促進の指標としては、相談件数などもよいのでは。</li> </ul>	(意見なし)

## (2) その他の施策についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
C1 地場事業者の成長を支援します	<ul style="list-style-type: none"> <li>・跡継ぎがない理由の分析を行う必要がある。</li> <li>・人材育成について、地域で取り組むことが必要。専門学校の誘致なども含めて。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎市民で長崎の大学にいるのは地元志向が強い場合が多い。</li> <li>・学生(学校や学部)と人材不足をつなぎ、長崎の良い部分を点ではなく面でつなぐことが必要。</li> </ul>
C3 次世代につながる農林業を育てます	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候の変化に合わせた農業の在り方を考える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地などが狭いことを品質でカバーしていくことが大事。</li> </ul>
C4 水産業を環境変化に強く活気のある持続可能な産業にします	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候の変化に合わせた漁業の在り方を考える必要がある。</li> </ul>	(意見なし)
C5 地元農水産物の消費を拡大します	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した水産農林業の経営のための支援充実が重要である。</li> </ul>	(意見なし)

## まちづくりの方針D

### 私たちは「環境と調和した持続可能なまち」をめざします

#### (1)「基本施策 D2：資源を守り大切に作る社会の実現をめざします」についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
全体	(意見なし)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公式ラインにおけるチャットボットで分別方法が分かることを周知</li> <li>・分別について、対象に合わせて、色々なところで出前講座をしては。</li> </ul>
1-① 資源物分別収集の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチックの分別方法について市民へもっと周知をするべき。</li> <li>・古紙にならず燃やされている量を周知する必要がある。</li> <li>・分別をしないことに対してペナルティを課すなど分別を意識させる制度が必要では。</li> <li>・家庭ごみの推移を市民へ示してはどうか。</li> <li>・事業系のごみについても減らしていく必要がある。</li> <li>・ゴミステーションごとにゴミの出し方の評価をしてもいいのでは</li> <li>・個人に対しても分別に関する指導が必要では。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初から複雑にするのではなく、段階的に分別してもらうのはどうか(まずは行動を変える)</li> <li>・ゴミ袋代に処理手数料を上乗せする考えもあるのでは。</li> <li>・生ごみによる害虫発生などもあるのでゴミステーションの見直しも必要では。雨天時なども含め野ざらしになることで環境が悪化している。</li> </ul>
1-② ごみ排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が出したごみの見える化をすることで、ほかの人と比較もでき、減らす意識を持てるようになるのでは(図や絵にしてもいいのでは)。</li> <li>・どこまでごみを減らせばいいのかも示せると良い。すべての過程に具体的な数値を示すなどしてはどうか。</li> <li>・世帯当たりのごみ量を示してはどうか。</li> <li>・エシカル消費の呼びかけが必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食料品の多重包装に対する改善を行政から指導できないか。</li> <li>・アクトコインの活用を進めること。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスを数値で周知するなどの工夫があつてよいのではないか。</li> <li>・リサイクルだけでなく、リユースの取組みを進めてはどうか。</li> <li>・市民が分別などを工夫することによる効果を金額で見える化してはどうか。 (リサイクルがされないのごみ処理にかかる支出が増えることを示す)</li> </ul>	
2-① 廃棄物の適正処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪質な業者へのペナルティを強化してはどうか。</li> <li>・多くゴミを出す商売をする業者へ処理手数料を増額してはどうか。</li> </ul>	(意見なし)
2-② 処理施設の整備等	(意見なし)	・東工場の工事の遅れなどの要因は？これまでの取組みでその改善につながるのか？

## (2) その他の施策についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの方針Eの関連として、道路の整備により自転車の利用が増えることや、公共交通機関の利用が増えることはまちづくりの方針Dの施策がめざす姿につながる。公共交通網が繋がっていないエリアでは電動キックボード等のモビリティを導入することも検討してはどうか。</li> <li>・エコドライブは交通安全にもつながる。</li> </ul>	(意見なし)

## まちづくりの方針E

### 私たちは「だれもが安全安心で快適に暮らし続けられるまち」をめざします

(1)「基本施策 E4：暮らしやすいコンパクトな市街地を形成します」および「基本目標3「まちの形」と「まちを支えるしくみ」をつくる」についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
全体	・「コンパクト」と「ネットワーク」はセットで記載したほうがよい。中央集約のように感じられる。	(意見なし)
1-① 都市計画の見直し	・路面電車の駅からJRの駅が遠い ・中心部以外での地区の都市機能は？	(意見なし)
1-② 定住の促進	・人口密度の適正な値は地区ごとに違うのではないか。(過密なところが少し減って適正になるのは別に問題ない。)	・周辺は公共交通機関の便も減っており、車がないと暮らせない。 ・斜面地が多く若者が住みたがらない
2-① 住環境の改善・防災性の向上	・狭い道は運転しづらいので住みたくないと思う人もいる。道路の拡幅も住環境には重要ではないか。	(意見なし)
2-② 都市基盤の整備	・用地交渉が長引く原因をはっきりさせて対策することが大事。(1対1ではなく、自治会を巻き込むなどの方法もあるのでは。) ・ターゲットは今住んでいる人なのか、来てほしい人なのかを明確に。 ・災害時に道路が狭いと困る。道幅の拡大や迂回ルートの検討も必要。	・用地交渉の際にその土地の将来の変化や影響をデータで見せるようしてはどうか。

(2) その他の施策についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
E1 地域の連携・協力を促進し、防災体制の充実を図ります	(意見なし)	(意見なし)
E2 犯罪、交通事故のない地域づくりを進めます	(意見なし)	(意見なし)
E3 安心できる消費生活環境をつくります	・市の広報の変更により、消費者センターの講座の周知が減少した。	(意見なし)
E4 暮らしやすいコンパクトな市街地を形成します	(意見なし)	(意見なし)
E5 安全・安心で快適な住環境をつくります	・斜面地 風致地区の空き家を売りにくい(建築等の条件が厳しい)⇒新築住宅・改修について、規制緩和と安全性のバランスを考えながら検討進める必要がある。	(意見なし)
E6 車や公共交通による移動の円滑化を図ります	・南島原等で実施している「チョイソコ(乗合送迎サービス)」は、子どもの送迎にも活用できる。デマンド運行などもバスとタクシーの間のような利便性がある。	・脱炭素はハードで取り組めるが、公共交通は人がいないと残せない。人が減ってきている今が変化のチャンス。
E7 安全・安心で快適な道路・公園をつくります	・近所の人たちの顔が見える公園の活用を考えては。(Wi-Fi を公園に設置することで、こどもが増え、高齢者にスマホの使い方を教えたり、世代を超えたつながりが生まれるのでは)	・公園をはじめ、子どもがのびのび過ごせる場が減っている。
E8 水道水を安定して供給し、下水を適正に処理します	(意見なし)	(意見なし)

## まちづくりの方針F

### 私たちは「だれもが安全安心で快適に暮らし続けられるまち」をめざします

(1)「基本施策 F4：子どもをみんなで育てる子育てしやすいまちづくりを進めます」および「基本目標2 子どもをみんなで育てる、子育てしやすいまちをつくる」についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
全体	(意見なし)	(意見なし)
1-① 結婚に関する意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の結婚観の変化(期待の低下・経済的不安)への対応が必要では。</li> <li>・婚活イベントについては、「結婚」というワードを強く押し出しすぎず、「ライトで参加しやすい」雰囲気作りが重要では。</li> <li>・SNS やメディアを使った届け方の工夫(硬いイメージの払拭)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的安定が結婚の前提であるため、雇用施策と結婚支援の連動が不可欠。</li> </ul>
1-② 出会いの機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・婚活イベントの参加者減について、広報不足と問題点を記載しているが、参加者の意識の問題やイベントの内容の見直しの必要性もあるのでは。</li> <li>・イベント内容を工夫することや、場の魅力(大規模交流・ライトな出会い)を高めるなど参加促進を図ること。</li> <li>・民間企業と連携して出会いの場のバリエーションを増やすこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園・自然環境を活用した交流の場づくり(アスレチック、公園整備など)をしてはどうか。</li> </ul>
1-③ 不妊に関する情報の提供	(意見なし)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠・出産制度の周知不足、情報の分かりやすい提供が課題として指摘されており、不妊支援情報にも共通する整理が必要。</li> </ul>
2-① 妊娠・出産・育児への切れ目ない支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産関連給付の周知不足と手続き負担の問題があるのでは。</li> <li>・親世代と祖父母世代の育児知識のギャップ解消(祖父母向けリーフレット等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児のちょっとした体調変化への相談ニーズに応えられるようにすること。</li> <li>・里帰りできない家庭向け支援が不足。</li> </ul>

<p>2-② 子どもの健やかな成長への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0～2歳児を含む子育て支援制度の認知不足があるのでは。</li> <li>・育児不安を抱える保護者への支援(産後ケアの周知強化、里帰りできない方へのケアなど)が不足しているのでは。</li> <li>・保護者向け・祖父母向けの啓発・学びの機会が必要では。</li> <li>・男性の子育て協力体制のさらなる強化が必要では。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援センターを全ての校区に設置することはできないか。</li> </ul>
<p>3-① 地域・商店街・職場などで子育てを応援する取り組みの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会文化を持つ他地域(例:那珂川市)を参考に、地域で子どもを見守る文化の再構築をしてはどうか。</li> <li>・職場や企業(相談会・働き方配慮)と連携が必要では。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティの弱体化により「共助」が機能しにくい状況にあるのでは。</li> <li>・高校までの子育てが良質なまちになってほしい。</li> </ul>
<p>3-② 子育て相談支援体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談の“タイミング”が重要。周知も不足しているのではないか。</li> <li>・仕事が忙しく支援を受けられない保護者への対応も必要なのでは。</li> </ul>	<p>(意見なし)</p>
<p>3-③ 子育て情報の収集・発信の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりにくい資料(文字量が多い)を改善し、絵・色分けで見やすくしてはどうか。</li> <li>・SNS、テレビ等を活用した情報発信を強化するべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度情報が届いていない、対象外の人にも知って欲しい。</li> </ul>
<p>3-④ 子どもの貧困対策の推進</p>	<p>(意見なし)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報が届かない弱者層への支援が広く課題である。</li> </ul>
<p>3-⑤ 経済的支援の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産・子育て給付金について周知が不足しているのではないか。</li> <li>・高校生世代の福祉医療費の現物給付について、協議段階から次のステップへ進むべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車所有による経済負担など、若者の生活コストが高いことが指摘されている。</li> <li>・経済的な不安が結婚・出産に踏み出せない大きな要因ではないか。</li> </ul>
<p>3-⑥ 子育てを通じた仲間づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親同士のつながりづくりの機会が必要ではないか。</li> <li>・公園整備や地域の拠点づくりが交流促進につながるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援センター・地域イベントへの参加が伸び悩んでいる。</li> </ul>

3-⑦ 子どもが遊び、学ぶ場の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内遊び場の拡充が必要ではないか。</li> <li>・アスレチックや現代的公園、「道の駅+公園」等、子育て世帯が集える複合施設を整備してほしい。</li> </ul>	(意見なし)
3-⑧ 子育てを総合的に支援する拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て関連情報・相談・交流をまとめた“総合拠点”が必要。</li> <li>・利用者がアクセスしやすい中心市街地での拠点整備が必要。</li> <li>・行政窓口が縦割りでなく、ワンストップで対応してほしい。</li> </ul>	(意見なし)
4-① 保育の量の確保・サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士のサポートの増員が急務ではないか。</li> <li>・就職等していなくても預けられる場の確保が必要ではないか。</li> </ul>	・保育の現場での子ども数の減少(0～2歳など)が経営課題になっている。
4-② 保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士の確保・育成(該当者以外も含めた周知を行い、家族等からの声掛けもできるようにし、潜在保育士掘り起こし)が必要ではないか。</li> <li>・ワークライフバランスや保育者の給与のベースアップが必要。</li> </ul>	(意見なし)
4-③ 児童の安全・安心な居場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後デイの支援施設の充実を図る必要があるのでは。</li> <li>・フリースクールの拡大の維持</li> </ul>	・小中学生の放課後の居場所確保の重要性(公園整備などの議論と関連)
5-① 生活の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口の機能強化が必要ではないか。</li> </ul>	・ひとり親家庭は子育て・仕事の両立で悩みを抱える状況にある。
5-② 経済的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給付金が届きにくい(周知不足・手続き負担)のではないか。</li> </ul>	・経済的不安が子育て継続の負担に直結している。
5-③ 就業の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場企業との連携による働く場の確保、賃上げが必要ではないか。</li> <li>・ひとり親家庭の資格取得の支援が必要ではないか。</li> <li>・時間的余裕がない方も多い。支援を利用しやすい環境づくりが必要。</li> </ul>	・長崎市内の求人状況・賃金水準の低さが結婚・子育ての阻害要因になっているのでは。

<p>5-④ 情報提供・相談機能の強化</p>	<p>・ひとり親家庭で不登校になると働けない場合もある。離婚調停中の家庭の支援はできないか。</p>	<p>・制度を知らないまま利用機会を逃す例があるのでは。 ・子どもの年齢に応じた情報が適切に届いていないのではないか。</p>
-----------------------------	--	---

## (2) その他の施策についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
全体	<p>・市だけでなく機関連携の強化が必要。命に係わることは施策を超えて取り組むべき。 ・まちづくりの方針に掲げている「みんなで支え合い」という部分については、地域の在り方にもつながる</p>	(意見なし)
F1 人権が尊重され、様々な分野で男女が参画するまちをめざします	(意見なし)	(意見なし)
F2 高齢者が安心して自分らしい暮らしを続けられる地域づくりを進めます	<p>・地域包括ケアシステムの将来性について、地域との関係性が希薄になっている中、立ち行かなくなる時が来ることも見越して健康寿命を延ばすことなどによる自助の力を高めしていく準備も必要。 ・高齢化による空家問題についての対応。建物だけでなく、地形なども考慮し、車みちの整備も併せて行わなければ解決しない。</p>	(意見なし)
F3 障害者が安心して自分らしく暮らせるまちづくりを進めます	(意見なし)	(意見なし)
F5 原爆被爆者の援護を充実します	(意見なし)	(意見なし)

F6 生活困窮者等が将来への希望を持 てる支援を充実します	(意見なし)	(意見なし)
F7 自らすすめる健康づくりを推進しま す	(意見なし)	(意見なし)
F8 安心できる衛生環境を確保します	(意見なし)	(意見なし)
F9 安心できる医療環境の充実を図りま す	(意見なし)	(意見なし)

## まちづくりの方針G

### 私たちは「未来を創る人を育み、だれもが学び、楽しみ続けられるまち」をめざします

#### (1)「基本施策 G2：だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります」についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAの「A」に斬新さを。力を入れて取り組んでほしい。</li> </ul>	(意見なし)
1-① 市民の学習機会の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館等を夏の避暑地・冬の避寒地として開放しているため、チラシなどを配布し講座の参加につなげてはどうか。</li> <li>・講座等へ来た人がつながる場づくり、誘い合っ参加するような仕組みづくりをしてはどうか。</li> <li>・企業等とコラボして内容を充実させてはどうか。</li> <li>・リーダーになる人の講座などもあってもよいのではないか。</li> <li>・根底として「楽しさ」が大事。行政主体ではなく地域主体である楽しさ、つながるきっかけとして楽しさを感じてもらうことが重要ではないか。</li> <li>・これまでとは全く違う入口を作ることが必要ではないか。</li> <li>・恐竜博物館のPRを市民へもっと行うべきでは。</li> <li>・孫を連れていく祖父母世代などにもターゲットを広げてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のまちあるき講座が地域愛の醸成につながるのでは。</li> <li>・土日祝日の講座がなく、若い人は特に参加したくても参加しにくい。</li> <li>・誰でも行きやすい雰囲気づくりが必要では。</li> <li>・ふれあいセンターを借りる際に、地域の方優先になる「地域のひとの壁」があることも。</li> <li>・講座をするうえでの環境整備(防音やほしい備品などもあると良い)。</li> <li>・取組みが固定化しているように思う。</li> <li>・「学びの多様化」に対応した取組みがあるとよいのではないか。</li> </ul>
1-② 学生・若者への体 験活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットで調べれば講座に行く必要がない時代。そこに「行く価値」を設ける必要がある。普段と違う人に会える・知らない発見に出会えるなど。</li> <li>・U-サポの委託内容ブラッシュアップをしていく必要があるのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人や新しい人の意見を受け入れることでモチベーションや継続にもつながる。</li> </ul>

<p>2-① 学習活動ボランティアへの活動機会の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアだけではない支援の形の検討も必要。</li> <li>・ボランティアの方の達成感につながる種まきが大事。作業ではなく思いを伝えて手伝ってもらうことが大事。</li> <li>・農福連携の検討(農業とこども食堂など)</li> <li>・高齢者とコラボしても面白いのでは。</li> <li>・ボランティアの魅力を発信することが必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館とボランティアの関係性が良いところは活発な活動につながっている。</li> <li>・中心となる人・ボランティアとして取り組もうとする学生がいるのか。持続可能性の検討。人材育成が重要。</li> </ul>
------------------------------------	--	--

## (2) その他の施策についての意見

	<p>取組みの改善に関する提案</p>	<p>その他</p>
<p>G1 長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教員のなり手不足(教員の働き方が時代に合わせて変わっていない。不登校や保護者対応など悩みが多い。家庭との両立が難しいなど)、また離職者の増加の問題がある。学校教育のあり方を柔軟に見直してもいいのでは。</li> <li>・クラスみんなで勉強を頑張る仕組みづくりがあっていいのではないか。(みんなで取り組む達成感)</li> <li>・引きこもりヤングケアラーについては福祉と連携した解決が必要。</li> <li>・「英語教育」も施策に入れるべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力テストの結果が伸びていない(家庭学習に伸びしろがある?家庭の学習環境の分析として、収入と学力の関係はあるのか)。</li> <li>・こどもの声が聞こえることを「うるさい」という声も地域からある。</li> <li>・地コミやおくunchなど地域で子どもと関わり・育てる機会づくりが必要ではないか。</li> </ul>
<p>G3 スポーツ・レクリエーションの振興を図ります</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にプロスポーツが見られるようになった。このきっかけを広げてほしい。</li> </ul>	<p>(意見なし)</p>
<p>G4 芸術文化あふれる暮らしを創出します</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術アーティストを受け入れる施設があればよいのでは。使っていない施設(壊す前の施設)の活用などはできないか。</li> <li>・まちに自由に音楽ができる場所があればよい。</li> </ul>	<p>(意見なし)</p>

## まちづくりの方針H

### 私たちは「参画と協働によるまちづくりと確かな行政経営を進めるまち」をめざします

#### (1)「基本施策 H2：参画と協働による持続可能なまちづくりを進めます」についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちや地域への愛着・またその醸成、そのきっかけとなる興味を持つための取組みが必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自治会に入ること」「コミュニティを設立すること」が目的にならないように。全体として成果の数字を求めることは理解するが、質や定性的な部分が分かりにくい。問題も明確化ができていないのでは？</li> </ul>
1-① 各種団体への支援 の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティ連絡協議会のみでは無理があるのでは？様々な団体と連動させる方法を模索すべきではないか。</li> <li>・市民の多様化にそった自治会の変化についての意見交換の場づくりが必要ではないか。</li> <li>・自治会のサポーターが必要ではないか(企業、学生、ボランティアなど)</li> <li>・自治会加入促進でポスター等配布しているが受け取る人が自治会加入している人がメインなので効果がないのではないか。自治会に加入していない人には情報共有がない。未加入者向けのPRや周知、動機付けが必要。</li> <li>・自治会活動には企業等の協力・サポートも必要である。</li> <li>・未加入者にも自治活動を負担してもらうため、自治会「税」を導入してはどうか。</li> <li>・人口減少を見据え、新しい方向性(自治会の在り方)の設定が必要ではないか。</li> <li>・地域への愛着の醸成が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や社会の課題解決に協議会の設置は有効であると思う。</li> <li>・市の中心部とその他のエリア、商業地域と住宅地など、各地の特性ごとに交流や連携の仕方は異なるのでは。</li> <li>・自治会に入るメリットとは？(災害時の助け合いや自治会に参加することで共有できることもある。など)</li> <li>・タイパ・コスパを求める若い世代とのギャップ。</li> </ul>

<p>1-② まちづくりの担い 手創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化のため自治会役員と若者とのミーティングを実施している地域がある。取り入れてはどうか。</li> <li>・自治会に入っていない人にも意見をもらう場をつくってはどうか。</li> <li>・スマホネイティブ世代も入っていきやすい形にしてはどうか。</li> <li>・家族間で自治会について考え、伝えることも必要ではないか。</li> <li>・加入すると任されてしまうのではと思い加入をためらう人もいる。活動している人の「楽しそうな姿」を見せるのが必要ではないか。</li> <li>・市民活動センターの大学と連携した講座について、郷土学(商店街などの学びなども含む)やミクロの歴史を学ぶことは地域への愛を育み、地元に戻りたいという考えにつながるのではないか。</li> <li>・地コミの活動について、収入も大事だが、最も重要なのは人。企業からの地域活動への参加の分析+推進を。</li> <li>・若者のニーズや課題との連携(ロンドンでは学生の家賃が安い代わりに地域を手伝う制度がある。)</li> <li>・若い世代は「自治会」の仕組みがよく分からないという声もある。情報発信を強化してはどうか(SNS で情報を見る機会の創出。広報誌のプレゼント応募の最後に PR。イベントと組み合わせた発信など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員の高齢化について、集まりに参加できる時間が限られるため参加には企業の理解が必要。</li> <li>・こどもや妻が自治会に行くことで夫も参加するのではないか。</li> <li>・事業所の有無や支援してくれる企業の有無が地域によって差があるのではないか。</li> </ul>
<p>1-③ 地域の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携。企業と地域の WIN-WIN のつながりをつくってはどうか(広告→活動資金へ)</li> <li>・くunch(その他イベント)などを中心に地域を盛り上げるつながりも大事ではないか。</li> <li>・クラウドファンディングやふるさと納税について、独居高齢者のお子さんをターゲットにしてみてもどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金をクラウドファンディングで集める、その成果を伝えるなど地域の活動を伝えることもできる。</li> <li>・ファンをつくることが重要では(推し活のイメージ)</li> <li>・教育の中で地域活動に参加することで子どもたちも面白さを感じ、流出防止につながる。</li> </ul>

2-① 協働する仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地コミについては、日頃参加しない人への事前周知(紙ベース以外がよい)で参加率が上がるのではないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わがまちみらい勉強会」については、同じ困りごとを抱える人はもちろん、異業種交流の役割を持たせてはどうか。</li> </ul>
2-② 協働意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働意識の醸成を図る研修において、分野を超えた研修が必要。</li> <li>・管理職だけでなく、部下まで同じ意識の共有が必要ではないかな。</li> <li>・まちと家庭のつながりづくりが必要ではないかな。</li> <li>・先進自治会やコミュニティの事例の共有をしてはどうか。</li> </ul>	(意見なし)

## (2) その他の施策についての意見

	取組みの改善に関する提案	その他
H1 市民との良好なコミュニケーションを図ります	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報ながさきのデジタル化は高齢者の読了で安否確認などにつながるようにはどうか。</li> <li>・知りたい情報がピックアップされているとよい。広報誌のスリム化もできるのではないかな。</li> <li>・地元の人と対面で関わり、達成感を得るのは必要な体験ではないかな。その時間を作るために効率化を併せて進めること。</li> <li>・サイレントマジョリティー(自分の意見を積極的に言わない大多数の人々)の存在を意識し、YES・NOなどで応えられるライトな市政アンケートを取ってみてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメント等意見を集めただけになっていないかな。聴いたことへの返答・検討を行うこと。</li> </ul>
H3 市民に信頼される市役所にします	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員内での連携意識(横ぐし)を通す。</li> <li>・所属や担当業務によって人材育成のレベルに差が出ていると思う。多所属の業務に従事できる制度を作るなどして、人材のシャッフルにより、人材育成につなげてはどうか。人脈を広げることにもつながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の退職者が多いとのことだが、同年代の相談相手が必要ではないかな。</li> <li>・職員1人1人の自分なりの働く意味の発見が重要。</li> </ul>

## 【重点プロジェクトアクションプラン】

### (1) 経済再生プロジェクト

	意見等
A 交流拡大	<ul style="list-style-type: none"><li>●長崎の魚の魅力発信と拠点づくり<ul style="list-style-type: none"><li>・フィッシャーマンズワーフのように、出島ワーフで魚を提供してはどうか。観光客に魚を提供できる場所が少ない。</li><li>・魚はおいしいが、食べられるお店がわからない。わかりやすいアイコン(場所)があると良い。</li><li>・さしみシティは明確なコンテンツ化・ブランド化が必要である。</li><li>・「白鉄火」など、キラーコンテンツがあるといい。</li><li>・多種多様な魚が食べられるのは売りになるのではないか。</li><li>・富山は成功事例で、松浦のアジフライもイベントで人気がある。ブランディングが大事である。</li><li>・提供する店もコンテンツがあると提供しやすいのではないか。</li><li>・料理人の育成やネットワーク構築も検討してもよいのではないか。</li></ul></li><li>●付加価値の高いコンテンツの醸成<ul style="list-style-type: none"><li>・単価向上のための体験型のアクティビティの導入を検討してはどうか。(レンタルの電動キックボードなど)</li></ul></li><li>●観光案内機能の整備<ul style="list-style-type: none"><li>・スマートフォンなどを有効活用し、観光ルートの案内を強化すべきである。一目でわかる路線図がなく、わかりにくい印象がある。</li></ul></li></ul>
B 地場産業支援	<ul style="list-style-type: none"><li>●必要な人材の確保・育成 ●生産性向上支援<ul style="list-style-type: none"><li>・AI 人材のリスキリングによる生産性向上と給料アップに取り組まなければならない。給料が高い仕事があることで長崎市に人が戻る。</li><li>・事業承継も重要な課題。後継者とのマッチング、M&amp;A など様々な手法で支援を行ってほしい。</li><li>・学生と企業の交流は良い取組みだと思うので拡大を検討してほしい。</li></ul></li></ul>

## (2) 少子化対策プロジェクト

	意見等
<p>A</p> <p>長崎市で子どもを持つ希望を叶える</p>	<p>●結婚したい人を後押しする取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近交流の場が少なくなっている印象がある。出会いの場を増やすような取組みを進めてほしい。</li> <li>・イベント参加者の年齢・属性のミスマッチ解消が課題であると思う。検証しながら進めてほしい。</li> <li>・「女性はサポート役」という固定観念は今の若い世代には合わない。心理的安全性がないと大卒の女性が市外に出ていくのは止められないのではないか。アンコンシャスバイアスの解消などを企業に働きかけることが必要ではないかと思う。</li> <li>・シングルや事実婚など色々な生き方があると思うので、法的結婚を前提としない柔軟な支援を行ってほしい。</li> </ul>
<p>A</p> <p>長崎市で子どもを持つ希望を叶える</p> <p>B</p> <p>長崎市を選んでもらう・住んでもらう</p>	<p>●子育てしやすい環境・雰囲気づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2子無償化の取組みやこども家庭センターのLINE相談の制度は非常に有効な施策であると思う。</li> <li>・共働きが増えて、市の中心部では特に核家族化が都会と変わらない状況ではないか。子育てサポーターやファミリーサポートがかなり重要になってくると思っている。精神的支援を必要としている人が増えてくるのではないか。制度周知をしっかりと行ってほしい。</li> </ul>
<p>B</p> <p>長崎市を選んでもらう・住んでもらう</p>	<p>●長崎市ならではの教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎のことをよく知ってもらう取組みも必要ではないか。くんちの踊り町は小さいころからそのような取組みを行っているので、長崎愛が強いように感じる。</li> <li>・不登校対策として、学童クラブの有効活用は1つの解決策とならないか。メタバースの活用などテクノロジーでカバーできる場所なども検討してほしい。</li> </ul>

### (3) 新市役所創造プロジェクト

	意見等
A 市役所を担うひとづくり	<p>●職員のエンゲージメント向上対策●デジタル技術やデータの効果的な利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生成AIやDXを活用しながら、判断能力を高めることも必要である。</li> <li>・デジタル技術を活用しBPR(業務改革)を推進して欲しい。一方で、対話の時間、部局間の連携なども大事にして欲しい。</li> <li>・「効率化」というのは幸せなのか。組織としては良いが働いている側からするとどうか。職員の働きがいも重視してほしい。</li> </ul> <p>●職員のワークライフバランスの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な働き方の周知が不足していないか。理解促進が必要であるように感じる。</li> </ul>
B 時代に合った市役所経営	<p>●デジタル技術やデータの効果的な利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンデータについて、外に出せるものと出せないもの、アクセス権などの課題はあると思うが、政策立案や民間などでも活用が期待できることから取組みを進めてほしい。</li> <li>・AIチャットボットの導入も有効ではないか。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市議会についても効率化を検討できないか。</li> <li>・デジタルリテラシーの数値化ができるとパフォーマンスが向上すると思う。</li> <li>・戦略的に新しい仕組み・体制を導入していくべきだと思う。</li> </ul>

## 長崎市政策評価実施要綱

### (目的)

第1条 この要綱は、本市の政策評価に関する基本的な事項を定めることにより、評価の円滑な実施とその結果の適切な活用及び市民への情報提供を図り、もって、社会経済状況の変化に対応した、より効果的かつ効率的な行政運営の推進と市政に関する透明性を確保することを目的とする。

### (定義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 施策 市の基本政策を達成するための個々の方策をいう。
- (2) 事務事業 施策を実現するための手段として実施する個々の具体的な行政活動をいう。
- (3) 施策評価 施策の達成度の総合的な評価を行い、施策の方向性を導くとともに、施策を構成する事務事業の最適化を図ることをいう。
- (4) 事務事業評価 事務事業について、その目的妥当性、有効性、効率性その他必要な観点により総合的に行う評価をいう。
- (5) 政策評価 施策評価及び事務事業評価をいう。

### (政策評価の対象)

第3条 政策評価は、本市の総合計画に掲げる施策及び事務事業を対象とする。

### (評価の時点)

第4条 施策評価は事後の評価とし、事務事業評価は事前及び事後(事業の途中のものを含む。以下同じ。)の評価とする。ただし、事務事業評価の事後の評価は、施策評価に併せて実施するものとする。

### (政策評価の実施)

第5条 施策評価は、施策主管課長(各基本施策を主管し、施策評価を実施する責任者をいう。)が施策関係課長(施策の目的達成に必要な事務を所掌する所属の長をいう。)及び事業担当課長(施策を構成する事務事業を実施している所属の長をいう。)による施策評価検討課長会議を経て行う一次評価及び

施策評価会議（一次評価の検証を多角的な視点から行うために設置した別表第1に掲げる職にある者により構成する会議をいう。）が行う二次評価とする。

2 事務事業評価は、所属長が行う一次評価及び事務事業評価会議（一次評価の検証を多角的な視点から行うために設置した別表第2に掲げる職にある者により構成する会議をいう。）が行う二次評価とする。  
（第三者機関）

第6条 政策評価の客観性及び信頼性を確保するため、長崎市附属機関に関する条例（昭和28年長崎市条例第42号）別表第1に規定する長崎市総合計画審議会の意見を聴くものとする。  
（評価結果の公表）

第7条 政策評価の結果は、毎年度、ホームページ、広報紙等により市民に公表するものとする。  
（評価結果の活用）

第8条 政策評価の結果は、当該施策及び事務事業に適切に反映し、予算編成、総合計画の進行管理等に活用するものとする。  
（政策評価制度の改善）

第9条 政策評価の制度は、その効果的・効率的な運用を図るため、継続的な改善に努めるものとする。  
（委任）

第10条 この要綱に定めるもののほか、政策評価の実施に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年8月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。  
(長崎市政策評価委員会要綱の廃止)
- 2 長崎市政策評価委員会要綱(平成 19 年 4 月 1 日施行)は、廃止する。

附 則

この要綱は、平成 27 年 9 月 30 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

#### 別表第 1 (第 5 条関係)

企画政策部長
総務部長
財務部長
企画政策部都市経営室長
企画政策部長崎創生推進室長
総務部総務課長
総務部行政体制整備室長
情報政策推進部DX推進課長
財務部財政課長
環境部環境政策課長
土木部土木企画課長
まちづくり部都市計画課長

別表第2(第5条関係)

企画政策部都市経営室長
企画政策部長崎創生推進室長
総務部総務課長
総務部行政体制整備室長
情報政策推進部DX推進課長
財務部財政課長
環境部環境政策課長
土木部土木企画課長
まちづくり部都市計画課長